
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2026 年 VOL. 2 (2026. 7)

- » 東北 IC にて、男子総合が 2 位と 58 点差をつけて総合二連覇を達成
- » 東北 IC・男子 400m にて、岸本醍知(3)が 47.11 で部記録を更新し優勝
- » 東北 IC・男子 800m、男子 1500m にて、縣昌幸(3)が 2 冠を達成
- » 東北 IC・男子やり投にて、増田併介(4)が 65m24 の自己新で 2 連覇を達成
- » 北大戦にて男子総合 2 連覇、女子総合 2 位

● 第 79 回東北学生陸上対校選手権大会(東北インカレ)	-----2~16 ページ
● 第 48 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(北日本インカレ)	-----17~23 ページ
● 北海道大学対東北大学定期戦	-----23~31 ページ
● 主将・女子主将及び各 PC より七大戦への抱負	-----32~35 ページ
● 自己ベスト更新者一覧	-----35 ページ
● 今後の予定	-----36 ページ
● 編集後記	-----36 ページ

小夏の候、会員の皆様にはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

今号では、第 79 回東北学生陸上対校選手権大会、第 49 回北日本学生陸上競技対校選手権大会、第 87 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦の計 3 つの大会を中心に、各大会における選手たちの活躍をお伝えいたします。併せて主将・女子主将・各 PC からの七大戦への抱負をお伝えいたします。

◎第 79 回東北学生陸上対校選手権大会(5/29~31)～キューアンドエースタジアムみやぎ～

5/29(金)~5/31(日)の三日間にわたり、キューアンドエースタジアムみやぎにて第 79 回東北学生陸上対校選手権大会が開催されました。男子は、トラック・フィールド共に優勝を果たし、昨年以上に仙台大を引き離して見事 2 連覇を達成いたしました。また、女子もトラックで 3 位に入賞するなど、男女ともに多くの選手が目覚ましい活躍を見せてくれました。以下に、対校得点の結果、入賞者一覧、および出場選手による選手報告を紹介いたします。

●総合結果

男子	得点	順位	女子	得点	順位
トラック	94	1	トラック	58	3
フィールド	78	1	フィールド	14	6
総合	191	1	総合	72	5

●入賞者一覧

男子 200m	室田竜磨(4)	7 位	男子砲丸投	松下典弘(2)	2 位
男子 400m	岸本醍知(3)	1 位		大泉宥太(4)	5 位
	堀航太郎(3)	8 位	男子円盤投	宮崎ローレンス(5)	4 位
男子 800m	縣昌幸(3)	1 位	男子ハンマー投	富家彬就(M2)	4 位
	渡邊優典(4)	3 位	げ	石井誠太郎(3)	6 位
	金子宙生(2)	6 位		大泉宥太(4)	8 位
男子 1500m	縣昌幸(3)	1 位	男子やり投	増田併介(4)	1 位
	北嶋僚大(4)	4 位		神篤朗(2)	6 位
男子 5000m	小林由輝(M2)	6 位		石井誠太郎(3)	7 位
	松本諒哉(2)	7 位	男子十種競技	鍵山弘樹(3)	1 位
男子 10000m	出田義貴(3)	2 位		倉部彰士(M1)	2 位
	向田祐翔(M2)	4 位		金岡拓途(2)	5 位
	新美友哉(2)	6 位	女子 400m	臼井千晴(3)	1 位
男子 110mH	長井颯馬(3)	3 位		喜多和奏(4)	6 位
男子 400mH	菅野涼太(M1)	8 位	女子 800m	佐伯紅南(2)	2 位
男子 3000mSC	杉山大輔(M1)	3 位		喜多和奏(4)	4 位
	椎葉威風(M1)	4 位		越後谷苑葉(3)	7 位
	城田健悟(3)	8 位	女子 1500m	佐伯紅南(2)	位

男子 5000mW	田中滲(2)	7 位	女子 5000m	鳥居夕里佳(1)	2 位
男子 4×100mR	小南-臼田-室田-岸本	4 位	女子 3000mSC	西山知佐(3)	2 位
男子 4×400mR	堀-岸本-渡邊-平野	2 位		渡邊華(2)	4 位
男子走高跳	平山朝陽(6)	5 位	女子 4×100mR	喜多-末岡-大槻-上田	7 位
男子棒高跳	齋藤成輝(1)	2 位	女子 4×400mR	建部-臼井-佐伯-喜多	4 位
	島村惟葵(M1)	3 位	女子走高跳	鈴木碧恋(M2)	5 位
	吉岡樹吏哉(2)	6 位	女子走幅跳	大槻真優(3)	8 位
男子走幅跳	小南慧馬(4)	1 位	女子三段跳	平山梨緒(2)	8 位
男子三段跳	大谷航平(D1)	2 位	女子円盤投	五嶋理子(3)	3 位
	久保田大聖(M2)	4 位		佐藤璃央菜(3)	8 位
			女子ハンマー投	末岡由衣(4)	8 位

●選手報告

☆男子トラック

男子 100m 予選

DNS 元木盛太(6)

調子は良く、タイムを狙える状態であったが、レース前の流しで右半腱様筋を攣ってしまい、続行不能と判断して棄権となってしまった。

4 組 4 着 新田琥太郎(3) 11.20(-2.1)

スタートは悪くなかったがピッチがなさすぎて不完全燃焼。とりあえず予選は通ることができたので修正して明日の準決ではタイムを上げていきたい。

5 組 3 着 白田蓮希(4) 10.98(+1.2)

今シーズンは試合での走りのリズムや感覚が掴めずいた。また、アップで走りすぎてしまったこともあり、スタートから噛み合わない感覚を持ちながらゴールした。

男子 100m 準決勝

1 組 7 着 新田琥太郎(3) 11.12(+0.5)

予選の課題のピッチのなさは修正できたが、スタートが上手く合わず、遅れた差が取り戻せずに 7 着でゴール。復帰戦の位置付けだったので思ったより記録が伸びた。

2 組 8 着 白田蓮希(4) 11.17(-1.1)

前日のレースや寝不足などにより、疲労がたまっている状態だった。あまり集中できずにスタートしてしまい、中盤以降もハムが思うように動かずスピードが上がりきらないままゴールした。

男子 200m 予選

1 組 5 着 稲谷将幸(4) 22.54(-0.1)

アップの段階から体が軽く、前日も割と睡眠時間がとれたため、向かい風が吹いていても PB が出せるとは思っていた。初出場でももちろん緊張はしたが、しっかり自分のやりたい動きができた。PB を 0.21 秒更新することができたとともに、準決勝進出を目標としていたため、プラスで拾われて目標が達成できて良かった。

3 組 6 着 白田蓮希(4) 22.75(-0.2)

今大会 5 本目となり、最後まで走り切ることができなかった。申し訳ない。

2 組 2 着 室田竜磨(4) 22.75(-0.4)

60m 通過あたりから 2 位以上は確定したと感じたので疲労を残さずゆっくり走った。

男子 200m 準決勝

1組3着 室田竜磨(4) 22.20(-1.9)

組のレベルが高く着順は厳しそうだったから全力で走った。前半は頑張りすぎず様子を確認し、後半ギアを上げて1人抜かしてなんとかタイム通過を果たした。

2組8着 稲谷将幸(4) 23.16(-1.1)

予選突破を目標としすぎて、準決勝はフワフワした気持ちで走ってしまい気付いたら終わっていた。予選の方がはるかに集中できていたという感覚。反省。頑張るぞという気持ちのみで挑んでしまい、技術的にやりたい動きがほとんどできなかった。連日の試合というものもあり経験がなく、対応しきれずに最後はガス欠状態だった。今後の糧にしていきたい。余談だが、帰りの車で文系の同期が最後の東北インカレに対して哀愁を感じており、また来年頑張ろうと思える自分が幸せ者なのだと気付いた。

男子 200m 決勝

7位 室田竜磨(4) 22.36(-2.7)

怪我明けで間も無く、疲労困憊だったので無事ガス欠。レース全体として力が入らなかったがなんとか粘った。シーズン初戦で5レースをやり切れたので及第点。これからのレースに繋がるような3日間だった。

男子 400m 予選

1組1着 岸本醍知(3) 47.85

前半の入りの確認、レースプランを確かめることを目的に前半からしっかりスピードを出して走る。250m程度で余裕があることを確認し、ホームストレートは足にいらん負荷をかけないように力感を維持して走りきった。風が強い中、温存しつつ47秒を出せたことで決勝に向けての自信をつけることが出来た。

2組3着 堀航太郎(3) 50.36

持ちタイムでは12位相当で、決勝に残るためにPBを出す気持ちで準備をしていたが、レース当

日体調を少し崩してしまった。加速がうまく乗れずに前半で大きく力を使い苦しいレース展開となったが、先頭になんとか食らいつこうとして走り切った。組では3着でPBも出せなかったが、他の組も揃ってタイムが悪く決勝進出を決めることができた。

3組5着 高野珀人(1) 51.34

大学デビュー戦でした！

男子 400m 決勝

1位 岸本醍知(3) 47.11

予選により力が残っていなかった昨年とは異なり、十分に足に力が残った状態で決勝を迎えた。バックストレートでしっかりスピードを乗せて走ることを意識して走り、良いレース展開でホームストレートを迎えることができた。残り50mあたりで横に人が見えたものの、力まずに1位で走り切ることが出来た。全カレA標準である47.10には少し及ばなかったもののラウンド戦でPBを出せて良かった。46秒台、全日本インカレ準決勝進出を目指して引き続き練習を積んでいきたい。

8位 堀航太郎(3) 50.39

予選で使い切ってしまったものもあり、体調不良からくる吐き気が治らずレースを迎えた。予選で動いたため体は軽くなったが吐き気だけは増し、スタート直後から腹圧が保てずスピードが出せないレース展開になった。普段とは違う後半型の走りをし、最後に他の選手と少し差を詰めたが捲れる余裕はなく8位でゴール。得点圏外から貴重な一点を持ち帰ることができたのは良かったが、PBを出せばもう少し点数を伸ばすことができていたため、調整がうまくできなかった自分の弱さを理解した。練習を積んでもっと強い選手になりたいと持った。次400をやるときは、どんなコンディションでも49秒前半を安定して出せる人間になって帰ってきます。



部記録を更新し優勝した岸本(3)

男子 800m 予選

1組1着 渡邊優典(4) 1:55.73

一周目を57で通過し、自分にとってはややハイな入りで後続を絞る。ラスト200mで3位以下とだいぶ離れたので最後は流してフィニッシュ。

2組1着 金子宙生(2) 1:55.92

自分のいつも通りの戦い方をするために、周りの状況を確認しながら、最初の100mを走る。ブレイク後は、ひたすら2番手を保持することを意識。残り200mの位置でスパートをかけて、1着。自分の作戦が完全にハマった試合だった。

3組1着 縣昌幸(3) 1:58.38

切替走で決めに行った。100だけ踏んでそのあとはガッツリ落とした。他の大学も自分が前日の1500王者なので警戒して後ろに着いてくれて自分の展開にできた。400前に1人誰か出たので着いて行って切り替えておわり。

男子 800m 決勝

1位 縣昌幸(3) 1:51.43

優典さんにB標タイムの1:51.50を切るためにpmをお願いして望んだ。スタートして前年インターハイ王者の菊池君が思ったより飛ばしていて400通過は想定より2秒はやく400付近が1番しんどかった。だがそこから400-600にかけ

て、ペースが落ち、余裕が生まれて勝てそうな気がしてきた。菊池君が前に出て私もそれに続いた。650辺りで菊池君の動きが悪くなってきたのでチャンスだと思い踏んだ。抜かしたあとちょっとチキって踏み切れずに大会記録更新ならず。残念。

3位 渡邊優典(4) 1:55.23

一周目を54切るハイペースで突っ込み、昨年インターハイチャンピオン菊池(岩手・1)を疲れさせにいった。しかし、ラスト300mで先に私に限界が来てしまい、最後身体が動かなくなってしまう。最後3位を死守してフィニッシュ。

6位 金子宙生(2) 1:58.54

1周目から前の集団についていこうとしたが、自分の予想よりも速くついていけなかった。そのまま、第2集団を先導したが、残り200mで後ろから抜かされ、そのまま6位でゴール。悔しい結果になった。



800mと1500mで二冠を達成した縣(3)

男子 1500m 予選

1組2着 縣昌幸(3) 4:09.27

4番手以内に入ればいいので、最初はゆっくり入ろうとしたが、学院大の人達が4分ギリする

ペースで突っ込んだので、驚きつつ、第一集団の最後尾からスタートした。残り 2 周から徐々に順位を上げラスト 300 からあげようとしたけど風が強かったので 2 番手のままにしてゴール。何も疲れてなかった。

2 組 2 着 北嶋僚大(4) 4:14.25

常に集団の前方でレースを進めた。風が強くペースがあまり上がらなかったが、2 着で決勝進出を決めた。

2 組 10 着 錦戸昂雅(4) 4:20.91

決勝進出を最低限の目標として挑んだが、中盤から苦しい走りとなってしまう、最後の 1 周で集団から離れてしまった。練習をしっかりと積んで七大戦に向けていきたい。

男子 1500m 決勝

1 位 縣昌幸(3) 3:57.70

優勝しか目指してなかったレースだった。結果的にはネガティブラップだったが、全然ペースが上がっていることに気づかなかった。残り 200 までは絶対に誰かの後ろについて、そこからなら PC あさひ君の切替走のメニューによって培われたスパート力で全員下せると思っていてそのまま実行して見事成功。PB4 秒更新。C 標獲得。

4 位 北嶋僚大(4) 4:03.13

予選よりはハイペースでレースが進み、前半は集団の中で温存していた。ラスト 400m で仕掛けたが、上げたペースを維持することができずに 4 着でフィニッシュ。

男子 5000m 決勝

6 位 小林由輝(M2) 15:20.32

序盤はスローペースとなり、入賞圏内を維持。3000m からのペースの乱高下に着いていけず、残り 400m 辺りで落ちてきた選手を拾い、ラストスパートで引き離して 6 位でゴールした。申請タイムでは 11 番目だったので、着順を意識したレースをすることができた。

7 位 松本諒哉(2) 15:22.41

持ちタイム的には入賞が厳しそうだったため、順位にこだわったレースを展開した。暑さもありスローペースになったことが自分の強みが生かされる展開となり、目標の入賞を果たせた。しかし上位の人たちとの実力差も感じたため、もっと練習して成長していきたい。

10 位 出田義貴(3) 15:34.34

10000m の疲労もあり始めは動きが悪かったですが、だんだんと動くようになり余裕も出てきました。集団の中盤から後方に一度って周りの様子を見ながら 3000m 付近までレースを進めました。そこからペースが落ち、一度 8 人くらいに絞ろうと上げましたが、その後すぐに熱中症になり、力が入らなくなり何とか走り切って 10 位でゴールしました。

大学に入って二度目の熱中症という事で、よりいっそう自己管理を徹底していきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

男子 10000m 決勝

2 位 出田義貴(3) 31:25.18

学院大の選手が 3 連覇中であり、それを崩そうと臨みました。コンディションも悪くなかったので、自ら引っ張りすぐに一騎打ちの形になりました。そのまま、6000m 付近まで進み、そこで先に仕掛けられ、ついていくことができずに 2 位でゴールしました。最低限の目標タイムを着ることはできませんでしたが、勝ち切ることはできなかったのも、予選会ではしっかり勝てるように頑張っていきます。応援、サポートありがとうございました。

4 位 向田祐翔(M2) 32:09.88

強風予報と暑さから飛び出した 2 名を除き、集団となった。東北大の選手 2 名で集団を先導したが、後半のペース変動で体力が削られてしまい、3 位の選手について行く事ができずスパートに負けそのままゴール。

6位 新美友哉(2) 32:22.62

レースプランとしては 3'10"の集団があればそれに着いてラスト勝負して 3 位を狙っていました。実際は最初に実力ある 2 名の先頭集団が形成され自分と向田さんで引張る形となりました。3'15"-18"ほどかけて余裕をもって中盤ペースを刻んだつもりでしたが最後のペースアップに着いていけず突き放され 3 位争いに敗れてしまいました。突き放された時の粘りの弱さも含め課題が多くあるので予選会で万全を尽くせるよう練習に励みます。

男子 4×100mR 予選

1組3着 小南(4)-白田(4)-室田(4)-元木(6)

記録：41.61

試合直前期のメンバー変更により十分なバトン練習ができていない状態で出場した。予選は余裕を持って通過できると予想し、全区間で安全にバトンパスをした。予定通りの位置で 4 走までバトンをつないだが、アンカーの元木(6)が両足をつってしまい、徐々に後ろにつめられていった。しかし、両足をつりながらも 6 年生(元木)の意地の走りを見せ、なんとか着順で決勝に進んだ。

男子 4×100mR 決勝

4位 小南(4)-白田(4)-室田(4)-岸本(3)

記録：40.63

予選からアンカーのみ入れ替えて出場した。1 走の小南が快走し、3 着あたりでバトンを繋いだ。バトンはやや詰まりながら 2 走の白田に渡し、上位の他大に離され 4 着付近で 3 走の室田に渡る。バトンパスは詰まってしまったが、外の福島大をかわし、3 番手でアンカーの岸本に繋いだ。ここのバトンで大きくロスをしてしまったことで福島大に抜かされ、猛迫を見せるも一歩及ばずに 4 着でフィニッシュした。悔しい結果で終わってしまったが、バトンなど課題がある状態で部記録を出すことができた。次回に期待。

男子 4×400mR 予選

1組1着 堀(3)-菅野(M1)-平野(2)-岸本(3)

記録：3:12.34

今回の東北インカレは予選から決勝を見据えたメンバー、オーダーで挑んだ。1 走の堀は大外からのスタートであったが落ち着いて自分の走りを発揮し 1 着でバトンパス。2 走の菅野は前半 100m を少し抑えて入り、バックストレートから後続を引き離す。大きく差を広げ余裕をもって 1 着でバトンパス。3 走の平野は前半 200m を抑えて入り、後半で大きく突き放す自分の走りを見せ、後続との差そのまま 1 着をキープしバトンパス。4 走の岸本は 300m までしっかりスピードを出して走りラスト 100m は後続との差をみながら楽に走って 1 着でゴールした。2, 3, 4 走が後続との差を気にしながら余力を残しつつ走ったレースで 3.12.34 という好記録が出たことで今年度のマイルの実力、全カレ A 標準切りへのポテンシャルを大いに感じさせるレースとなった。

男子 4×400mR 決勝

2位 堀(3)-岸本(3)-渡邊(4)-平野(2)

記録：3:14.26

決勝を想定して組んだ予選のメンバーであったが、2 走予定であった菅野の個人種目での負傷により 2 走に岸本、800m で好調な走りを見せていた渡邊を 3 走に、4 走に平野と大きくオーダーを変えて挑むレースとなった。1 走の堀はラストで仙台大を詰めるも少し距離を離され 3 着で 2 走にバトンパス。2 走の岸本は個人 400 で優勝した勢いそのままに仙台大にリードできるかと思いきや、慣れない 2 走でバックストレートの位置取りに力を使いすぎてしまい、後半で仙台大に刺される。うまく自分の実力が出せなかったレースとなった。2 着で 3 走にバトンパス。3 走の渡邊は急遽出場が決まったものの順位をキープしいい走りを見せてくれた。2 着をキープし 4 走にバトンパス。4 走の平野は前

半 200m で後続に抜かされるも持ち前の後半力を活かしてラストで抜き返す。2 着でゴールという結果になった。

決勝ではコンディションの影響も考えられるが予選にも出場した 1.2.4 走の 3 人が全員予選からラップタイムを落とすという結果になってしまった。オーダーの急遽変更というアクシデントもあった中で 2 位を取れたことは評価に値するが、目標としていた仙台大を抑えての優勝、3.10.80 の全日本インカレ A 標準切りは達成することが出来なかった。今後の北日本インカレ、宮城県選で A 標準切りを目指していくこととなるが、それぞれが各レースにどれだけピークを合わせ自分の実力を上手く発揮することが出来るかそして、ポテンシャルを十分に備えた新 1 年生、上級生がどれだけ実力を伸ばしマイルチームの力を底上げすることが出来るかに今年度、来年以降のマイルチームの結果がかかっている。

男子 110mH 予選

1 組 1 着 長井颯馬(3) 14.82(+0.5)

タイム狙いで走ったがフィニッシュタイマーが 14.82 と表示されていてめっちゃ萎えた。ただ、レース後に全く疲労が残っていなかったので決勝でかましてやろうと思った。

2 組 6 着 橋本盛太郎(1) 16.57(-0.2)

大学初戦でまずはしっかり走り切ることができて良かった。しかし記録は微妙であり、スタート、走力、技術など課題と実力を痛感するレースだった。

3 組 7 着 大山幹生(4) 16.58(+1.0)

アップで両ふくらはぎをつってしまい、正直走れる状況ではなかったが気合いで走り切った。応援ありがとうございました。

男子 110mH 決勝

3 位 長井颯馬(3) 14.67(-0.8)

公式練習の 3 台飛ぶ時につま先がつってしまって全然治らずにレースが始まってしまった。前半はいい感じに入れたが後半で若干垂れてしま

った。というのもつま先がインターバルで使えないためふくらはぎに疲労が溜まってしまい、後半でふくらはぎもつってしまい、転びかけてしまった。それにしてもタイムも向かい風の中 いい感じにまとめられたと思う。次のレースでは多めに OS1 を持っていきたい

男子 400mH 予選

1 組 6 着 八木陽輝(2) 59.75

1 ヶ月ほど前にハムに軽い怪我を負ってしまい、それが長引いてしまった。思うような練習が積み重なったが、それにしてもタイムが全くついて来ずレースプランを今一度練り直す必要性を実感した。

DQ 水澤大地(4)

1 台目のハードルの抜き足が下を通っていたようで失格でした。大きな舞台で記録も残せず情けないです。失格にならなかったとしても決勝への壁は高く、更なる練習が必要だと痛感しました。七大戦では大きく飛躍できるように精進します。

3 組 2 着 菅野涼太(M1) 52.73

1 台目でバランスを崩したためインターバルの歩数を予定より増やし、安全策で走りました。幸いバランスを崩したことによる減速はなく、調子がよかったこともあり、PB を 0.7 以上更新することができました。体力にも余裕があり、タイムをさらに伸ばせる余地があるレースでした。

男子 400mH 決勝

8 位 菅野涼太(M1) 1:04.45

前半スピードに乗り、想定通りのレースを展開できましたが、8 台目の足の切り替えでハードルに引っ掛かり転倒し最下位となってしまいました。力も残っており、2 着は固いレースだったのでとても悔いが残ります。ハードリングの技術向上を誓います。

男子 3000mSC 決勝

3 位 杉山大輔(M1) 9:40.37

表彰台を目標として臨んだ。スタートからスローペースになったため、先頭に出てレースを引っ張った。障害を越える感覚がかなり良かったが、きつくなってから感覚が悪くなり、相手の切り替えに対応できずに 3 位でゴール。圧倒的に練習不足だった。

4 位 椎葉威風(M1) 9:43.97

初めての 3000msc というのもあって、入賞かつ 9 分台を目標にした。スピード感覚もわからないのでとりあえず楽に 1000m を通過するイメージで走った。結果的に 3'14 のイーブンで走りきることができた。ハードルで減速して、間で詰めるの繰り返しになってしまったので次回はハードリング技術を向上させて望みたい。

応援ありがとうございました！

8 位 城田健悟(3) 10:02.03

中盤からあまり余裕を持った走りができず、かつ 1 番きついところで前に出ざるを得ない状況になってしまいラスト 2 周は足が残ってなかった。障害を跳ぶのは前より良くなっているがそもそもの走力不足が大きく、コンディショニング不足も痛感した。去年よりタイムも順位も落としてしまい納得のいくレースができなかった。今後の対抗戦に出場したときには求められる以上の結果を残せるようここから鍛えていきたい。

男子 5000mW 決勝

7 位 田中澤(2) 21:24.21

最初流れに任せてかなり速いペースで入った。練習よりも 4'00/km のスピードは楽に感じたが、集団が落ち着いてきたから一旦人の後ろについて温存を試みた。しかし、その後順位争いで抜かしたり抜かされたりして体力を使ってしまった。2000m 過ぎたあたりで 8 位で前が見えたため追っていった抜かした。そのあたりでのどが渇いて給水を取ろうとしたが、1 回うまくいか

なくて 2 回無駄に外に出てしまった。スポンジで身体に水をかけるのは結構身体が楽になってよかった。7 位になったあと差し込みが来て、そこからペースを維持できなかった。残り 1 キロからは切り替えてペースを上げていけたのは良かった。残り 1 キロ手前でベントニーのバドルを 1 枚もらったが、歩形の不安はあまりなく、アップの時から動きが良かったため、ペースを落とさずに行った。残り 1 キロ気合でペースを上げていって、ラスト 1 周に入る手前で岩手大の人に抜かれて、1 位かと思ってちょっと引いてしまった。ラスト 1 周入っても鐘が鳴らなくて、本当に残り 1 周なのか不安になってラストスパートをかけれずにいたけど、ラスト 200m で前が抜かせそうに見えたから、スパートをかけて力を全て出し切るつもりで上げたら抜かせた。練習がうまく積めてない割には PB で十分な結果ではあったが、力量自体は一ヶ月前とそこまで変わっていないだろうし、順位に満足出来ない。なので七大戦に向けて鍛錬を積んでいきたい。

DQ 山中遼平(4)

今回の東北インカレ(トンカレ)は、「あわよくば 8 位入賞」という目標を掲げて出場しました。4 月末に就職活動から復帰して練習を再開した状況ではありましたが、思いのほか順調に練習を積むことができていました。そのため、設定タイムを 21 分 40 秒とし、8 番手について入賞を狙うというレースプランを立てて臨みました。レース当日は非常に体の動きが良く、自分の中では 1000m を 4 分 20 秒ペースで入った感覚でしたが、実際は 4 分 6 秒付近で通過するほどのスピードでした。そのまま 8 位を狙える好位置につけ、ラストスパートに向けてレースを進めていたものの、結果的に 3000m 付近で失格となってしまいました。

原因は明確で、練習の段階から右足の「浮き」を指摘されていたにもかかわらず、歩形の改善に向き合わず、スピードを求める練習を優先してしまった自分の甘さによる結果だと思っています。

次の七大戦までにはしっかりと歩形を修正し、確実に入賞を狙えるだけの実力を身につけます。最後に、炎天下のなか応援や手厚いサポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

☆男子フィールド

男子 走高跳 決勝

5 位 平山朝陽(6) 190cm

今回の試合はコンディションも良く、自己ベストである 196cm をクリアして表彰台に立ちたいという思いで臨みました。しかし、193cm をクリアすることができず、結果は 5 位となり、最後の東北インカレとしては悔しさの残るものとなりました。一方で、チームに得点という形で貢献できたことや、多くのチームメイトの応援を受けながら競技できたことは大きな喜びであり、一生の思い出になりました。

13 位 柴田駿吾(4) 180cm

3 年ぶりに東北インカレに出場しました。直前まで、アキレス腱の痛みから出場を悩んでいましたが、最終的には出ると決めて、その日出せる 100 点のパフォーマンスではあったのかなと思っています。ただ、当日までの練習としては、当然不十分ではあったので、七大戦は、本番までの過程、試合結果共に納得できる形で終わりたいです。応援ありがとうございました。

NM 藤田想(M2)

今季から助走を少し伸ばし、スピードへの対応にやや不安を抱えるなかでの跳躍だった。公式練習では思うような動きが全くできず、踏み切り準備、踏み切り位置ともに極めて不安定な跳躍をしてしまった。本番は 1m75 からスタートだったが、3 本とも踏み切り位置の調整を試みたものの合わず、動作の再現性も低く、クリアできなかった。体のキレは最悪と呼べるほどではなく、ある程度の高さは浮いていたので、スピード耐性、技術の不足がモロに出てしまった形である。自分の跳躍技術の未熟さに対して非

常に腹立たしく思うので、この気持ちを忘れず、より一層練習に励みたい。

男子 棒高跳 決勝

2 位 齋藤成輝(1) 4m60

入学後、初の試合であった。高校までの課題である助走と踏切を改善すべく、ボスこと島村惟葵さんと議論を重ね、今までとは変わった助走スタイルで挑んだ。結果は中助走でベスト-10cm 程度、と健闘できたと思う。自分が競技できるのは学連の方や補助員、関係者の皆様のお陰であることを忘れずに、今一度初心を思い出して謙虚に取り組んでいきたい。

3 位 島村惟葵(M1) 4m50

風によって自分の弱さが露呈しました。出直してきます。

6 位 吉岡樹吏哉(2) 3m60

風が強く、加えて風が回っている中で、試合のプランを立てるのが難しかった。足も合わず 12 歩助走の完成度が低く、空中まで持っていけなかった。

男子 走幅跳 決勝

1 位 小南慧馬(4) 7m18(+0.9)

今年度は東北地区に有力選手が少なく優勝候補として出場した試合だった。その中でしっかりと勝ちきれたところは成長したところだと思う。一方で PB 更新ではあったが記録には全く納得していない。まだまだ全国水準の記録ではないので、しっかりと技術を噛み合わせ、日本 IC では恥ずかしくない跳躍をお見せしたい。期待して下さい。

14 位 坂本泰(M2) 6m47(-0.4)

終始、途中でビビってしまってスピード、ピッチを上げることができなかった。北日にはちゃんと合わせたい。

25 位 大場康平(5) 4m56(+1.4)

元々踏切脚の膝を痛めていたので 1 本で決めないといけなかったが、その実力は無かった。3 本目も跳ぼうとしたが、痛くて踏み切れなかった。



男子走り幅跳びで優勝した小南(4)

男子 三段跳 決勝

2 位 大谷航平(D1) 14m31(+1.0)

昨年までいた他大の 15m ジャンパーが卒業し、優勝も狙える試合であった。冬期に力を入れて取り組んでいた「流れが切れない跳躍」を再現することをメインに競技に挑み、実際、跳躍本数を重ねる毎に良い動きができた。それに伴い記録も伸ばすことはできたが、本数間の風の変化に対応し切れず、あと一步届かないところで 2 位に終わった。悔しい思いが残る反面、博士後期課程に進学してもなお第一線で活躍できたこと、特に自身の東北インカレにおける最高順位を更新しチームに貢献できたことは、素直に嬉しく思う。今後も持ち前の技術と修正力、そして若さ？を武器に練習を重ね、より好記録を目指せるよう尽力したい。

5 位 久保田大聖(M2) 13m87(-0.2)

1 本目は無難に跳躍をまとめてトップエイトに残ることが出来た。しかし、その後跳躍を崩してしまい、数本無駄にした。徐々に修正をかけて、6 本目で記録を伸ばして 4 位で終了した。これまでの経験値を活かした反面、表彰台に惜しくも届かず悔しい結果となった。引退までの残りの期間で記録の更新を目指す。

DNS 江尻矜真(3)

男子 砲丸投 決勝

2 位 松下典弘(2) 12m33

一投目から落ち着いた投げができた。全体を通してファーストで飛び上がってしまったため、セカンドの付く位置が左側になってしまいファールが多くなってしまった。突き出しは良いので、パワーポジションを安定させる。

5 位 大泉宥太(4) 8m63

イレギュラーへの対応力を試される試合だったと思います。今後精進します。

DNS 谷地穰太郎(2)

男子 円盤投 決勝

4 位 宮崎ローレンス(5) 33m75

不本意な結果だったが、チームに貢献することはできた。

11 位 松下典弘(2) 19m07

試合になってターンスピードが上がってしまい、練習試技でできていたことが出来なかった。リバースも不安定で 2 ファールしてしまったので、リバース無しの練習を増やす。

DNS 小田島創太(3)

男子 ハンマー投 決勝

4 位 富家彬就(M2) 42m20

久しぶりに 40m を超える投擲ができた。ただ、1 ターン目に入る際に重心を低く抑えることができたが、2 ターン目に移行する際の繋がりが悪く、4 ターン目に十分な出力を出すことができなかった。ターンの入りに焦点を当てた練習を投擲練習の日以外にもしっかりと積んでいきたい。

6 位 石井誠一郎(3) 29m16

初めての試合だったが、思ったより飛んだ。次は 30m 投げる。

8 位 大泉宥太(4) 14m81

記録は未熟ですが、総合得点に貢献できたことを嬉しく思います。

男子 やり投 決勝

1 位 増田併介(4) 65m24

予定通り優勝できてよかった。

6 位 神篤朗(2) 54m76

今年から入部し、初めての大学の大会に出場しましたが、仲間の声援のおかげで怪我中にも関わらずシーズンベストで入賞することができました。のびのびと練習出来ているのも OBOG の方々の寄付金のおかげだと思っています。このような充実した環境で次の北大戦でも頑張りたいと思います。

7 位 石井誠太郎(3) 54m46

入賞を狙っていたが、タイミングが合わなかった。技術的な面で変革期に入っているので、今後に期待していただきたい。次は勝つ。



自己新で優勝した増田(4)の投擲

男子 十種競技

1 位 鍵山弘樹(3) 61321 点

4 月からの足底筋膜炎や 3 週間前に石を蹴飛ばして指が腫れ上がり、練習できないなど不安な中で臨んだが最後までやり切れてよかった。最初の 100m で大幅 PB and 初 10 秒台で終えて上々の始まりであったが、2 種目の走幅跳では大幅に PB を更新ながらもスピードに耐え切れず脚を痛めてしまった。脚を痛めながらも工夫して苦手な高跳びを無難な結果で終えて、大会記録を狙えるペースで 1 日目を折り返した。しかし、やはり脚が持たずに 2 日目は PB を 1 種目も出せず、全体的に無難な結果に終わってしまった。2 位との点数差が余裕だったため 1500m

は足の痛みからゆっくり走ることにした。

目標としていた全カレ標準や大会記録には及ばなかったものの、とりあえず全カレ C 標を獲得できて本当によかった。全カレでは、最後まで全力で戦えるように、残り 3 ヶ月の間で体づくり、怪我につながる問題点の修正に注力して、全カレでは 7000 点を叩き出したい。

最後に、十種競技は競技特性から多くの人にお世話になるのが常ですが、今大会ではいつも以上に様々な応援、サポート、コーチングをしていただきました。怪我で余裕のない自分にとってとても助かりました。改めて、チームのおかげで十種競技ができていることを痛感した次第です。本当にありがとうございました。

2 位 倉部彰土(M1) 5517 点

自分の目標としていた記録には遠く及ばず、力量不足と試合に対する想定の子さを感じた。しかし、最後の 1500 では仲間からの熱い応援を受けて 6 点差でかわしなんとか 2 位に入ることが出来た。総じてとても楽しい試合だった。次は 27 大戦に向けて鍛錬して 1 段階高いパフォーマンスをしたい。

5 位 金岡拓途(2) 5350 点

今度は表彰台乗ります。



十種競技の金岡(2)と鍵山(3)と倉部(M1)

☆女子トラック

女子 100m 予選

2組6着 藤本心花(1) 14.00(-1.3)

大学になって初めて試合に出させて貰いました。大事な機会でしたが、自転車で怪我をしてしまい、あまり練習を積めない中での試合となりました。早く身体を戻して、タイムを出せるように地道に頑張ります。

DNS 白鳥名花(3)

女子 200m 予選

DNS 白鳥名花(3)

DNS 白井千晴(3)

女子 400m 予選

1組2着 白井千晴(3) 59.61

風が強くて進まなかった。

1組5着 建部亜美(3) 1:06.15

アップの時から風が強く、自分が動いているか分からず調子が掴めなかった。レース前半は落ち着いて入れたものの、力んでしまい想定以上に消耗してしまった。200m 通過で上げたようにしたが、前半の疲労により最後も伸びずにゴールした。全体的に腰が落ちた走りになってしまい上手く走れなかったレースだった。

2組2着 喜多和奏(4) 1:00.20

スタートはうまくいくも、加速に乗り遅れる。300 すぎたあたりになって今まで抜かれてきた相手を抜かし返せる位置に着くことができ、2着まで上がる。

女子 400m 決勝

1位 白井千晴(3) 56.37

前半からしっかりスピードを出せて良かった。UBでB標を切ることができて嬉しかった。

6位 喜多和奏(4) 59.84

スタブロをしっかり蹴って加速。200m を過ぎたあたりから周りにどんどん差をつけられ、最後

の100mでは向かい風に阻まれ、思うように進まず垂れるが、PBでゴール。



UBを出して優勝した白井(3)

女子 800m 予選

1組3着 喜多和奏(4) 2:23.19

想定通り3番手を死守する形を作る。200地点で32"の文字が見え、思ったより速くて驚く。2周目に入ってからはずきで100mごとにラップが落ちていった。

2組1着 佐伯紅南(2) 2:23.65

前日の1500mの疲労もあり、攻めるレースよりは、確実に着順を取りに行くため、先頭を走るつもりはなかった。しかし、思ったよりもスピードを上げてしまったので引くことにした。2周目のバックストレートでペースを上げ、独走となった。次の日の決勝でも戦えることを確認できた。

2組3着 越後谷苑葉(3) 2:27.70

ややスローペースでレースが進む中、後方で様子を見ながら着順での決勝進出を狙うことに決めた。第二集団は大きな動きのないまま終盤へ進み、ラストはスパート勝負へ。3人同時にゴールへ飛び込み、僅差で3着となり決勝進出を決めた。

女子 800m 決勝

2位 佐伯紅南(2) 2:16.02

全国レベルの選手と走ることが出来るレースが楽しみだった。目の前の勝負を、今の自分が持

てる力の全力で勝ちに行くつもりでスタートラインに立った。ラスト 250m くらいからのロングスパートだったが、勝ち切れた。男女 800m6 人で決勝を戦えたことが本当に良い経験になりました。応援ありがとうございました！

4 位 喜多和奏(4) 2:18.47

最初 200 で前に出る勇気を決められず、無理やり落として後ろに着く。400 通過が思ったより遅くて、失敗したと思う。500 で前に出るも出力が足りず、抜かし返される。順位は落とさなかったもののそのまま垂れてゴール。

7 位 越後谷苑葉(3) 2:26.38

序盤から集団のペースについていくことができず、単独でのレース展開となった。400 通過時点では十分に PB が狙えるペースだったが、後半にかけて大きく失速し、順位・記録ともに課題の残る結果となった。

女子 1500m 決勝

2 位 佐伯紅南(2) 4:46.19

400m の通過が 82 秒とかなりのスロー展開だった。表彰台を目標としていたので、4 番手で落ち着いて走り、最後の 1 周で切り替えた。ここ最近で一番キレのあるラストで、ラスト 300m は 53 秒だった。ホームストレートで勝ち切り、2 位を獲得出来たことは自信に繋がった。応援が力になりました。ありがとうございました。

9 位 越後谷苑葉(3) 5:03.74

スタート直後からスローな入りとなり、タイムを狙うため先頭へ位置を上げる。その後は集団の中でレースを進めるも、細かいペース変動の影響で徐々に消耗。中盤以降は順位を上げつつペースアップを図ったが、ラストで大きく失速し、目標には届かない結果となった。

13 位 松本葉那(3) 5:13.28

怪我から復帰して 5 か月目の初試合。1 周目がスローで焦ってしまい、余分な力を使って前に出ようとする。2 周目で目標より速いラップで通過するが、第二集団から離される。前に人がいなくなり 3 周目で 4 秒ほど落ちる。ラスト

300m は 61 秒まで上げ、抜かされた選手を抜き返してフィニッシュ。PB(5:01.45)からまだ差はあるものの、大学入学時程度のレベルには復帰し、遅いなりに"レース"ができた。夏終わり・秋の大会で 5 分切る。

女子 5000m 決勝

2 位 鳥居夕里佳(1) 17:43.07

大学デビュー戦で、状態が上がっていない中でのレースで不安だった。自己ベストから 1 分以上遅いタイムだったので、ここから切り替えて北日本、北大戦に負けて調子を上げていきたい。スピード力強化の練習に取り組んでいきたい。

13 位 塩見薫(4) 20:24.01

前半から余裕がなく、ペースもどんどん落ちてしまった。悲惨な結果になってしまったが、最後まで応援していただいたお陰で走りきることができたと思う。

女子 4×100mR 決勝

7 位 喜多(4)-末岡(4)-大槻(3)-上田(2)

記録：53.47

当初とはかなり異なるメンバーでの参加となり、バトンミスが目立ったが、なんとか得点につながることはできた。今後のリレーをさらに頑張っていこうという良いきっかけとなる試合にはなった。

女子 4×400mR 決勝

4 位 建部(3)-白井(3)-佐伯(2)-喜多(4)

記録：4:04.76

一走建部は他大学の選手に食らいつくも他大学の選手の速さに圧倒され、5 位で二走白井とバトンパス。そこから白井の圧巻の走りで見せ、四走喜多が一時抜かれた学院大を抜き返すも、3 位の山形大まで追いつくことができず、そのまま 4 位でゴール。目標としていた 3 分台も表彰台も達成できず、苦しいレースになった。

女子 100mH 予選

2組 6着 上田綾乃(2) 16.67(+2.0)

UBが出て嬉しい気持ちもあるが、PB更新を目標に練習してきたので悔しい。来年決勝行けるように頑張ります。

女子 400mH 予選

1組 5着 建部亜美(3) 1:09.66

アップでは練習の際よりも動いていたため、レース直前で2、3台目の歩数を減らすプランにした。そのため、3台目まではリズムよく走れた。しかし、4台目・6台目・9台目の歩数を増やす際に詰まってしまい、減速する原因となってしまった。8台目通過のタイムはPBを上回るペースだっただけに9台目のミスが痛手となった。

女子 3000mSC 決勝

2位 西山知佐(3) 12:42.85

3000mSCは初レースだったので怪我なく完走することが最優先だった。タイム的には2位を目指せそうだったので2位を走っていた人の後ろに付き、最後で仕掛けるという展開を想定していた。想定通り走れ、タイムもそれなりに出せたため、せこいレースではあったが程度満足だった。

4位 渡邊華(2) 14:07.78

初めて障害種目に出場しました。3000m自体も1回しか走ったことがなかったので、いろいろ慣れないことが多かったです。水濠はレースで初めて飛びました。みなさんから応援していただいたのがとても嬉しくて力になりました。転んだり障害をよじ登ってしまったりしたけどびらずに何とか走りきれたので嬉しかったです。

☆女子フィールド

女子 走高跳 決勝

5位 鈴木碧恋(M2) 140 cm

強風のため午前の試合が午後に延期された。調子はとても良かったが、ピークを合わせられず

に終わってしまった。SBを狙っていたのでとても残念な結果だったが、4点を部に入れられたことは良かったと思う。

女子 走幅跳 決勝

8位 大槻真優(3) 4m93(-0.1)

体の調子は良かったが、全助走での練習が十分に積めておらず苦戦した。また、足合わせの直前にスパイクが壊れてしまったり、待機場所に霧が吹いていて寒かったりと想定外のことに精神面で対応しきれなかった。

今後は不安要素なく試合に臨むことができるよう、練習も準備も万全にして本番を迎えたい。

9位 末岡由衣(4) 4m88(+1.5)

気合いが入りまくって空回りしてしまったが、自分の課題がちゃんと改めて見えた、次の試合につながるような試合になったと思う。

DNS 古閑詩季(3)

女子 三段跳 決勝

8位 平山梨緒(2) 10.82(+3.0)

周囲のコンディションと身体のコンディションが良く、身体がかなり動いたが、それに合わせた助走の調整が上手くできなかった。特に今回は本数を重ねる毎に動きが良くなっていったので、1本目からしっかり身体の動きをよくできるようなアップの仕方を考え直す必要があると感じた。怪我明けの自分がどれくらいの位置にいるのかを把握でき、助走とそこからの跳躍へのつなぎの部分が一番の課題であることがわかったという収穫もしっかりあった試合だった。ここからは強度をあげて練習を積んでいきたい。

DNS 古閑詩季(3)

女子 円盤投 決勝

3位 五嶋理子(3) 35m81

38mで優勝を目指していたが、記録と順位ともに目標には届かず悔しい結果となった。6本の試技の中で修正できたこと、PBを出せたことはよかった。

8 位 佐藤璃央菜(3) 20m26

初めて東北インカレに参加して、競技の場所が少し離れた投擲場にもたくさんの人が応援に来てくれて、とても高揚した。PB が出せて嬉しかった。

女子 ハンマー投 決勝

8 位 末岡由衣(4) 19m48

付け焼き刃ではあったが20m以上投げようと思って出場したので少し悔しい。楽しかったのもうた機会があれば次は2ターン以上で投げてみたい。



◎第 49 回北日本学生陸上競技対校選手権大会～サンディスクスタジアムきたかみ～

6/19(金)～6/21(日)の3日間にわたり、岩手県のサンディスクスタジアムきたかみにて第49回北日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。東北大学陸上競技部からも多くの選手が出場し、素晴らしい活躍を見せてくれました。出場選手の選手報告を以下に紹介いたします。

●選手報告

☆男子トラック

男子 100m 予選

1組3着 白田蓮希(4) 11.02(-0.8)

中盤のいい感覚を取り戻し、無風でPB近いタイムを出すことができた。一方で、スタートや終盤の改善点はあるが、今シーズンの限界も感じてしまった。

3組1着 室田竜磨(4) 10.78(-0.4)

号砲がならないといったトラブルや100mの初戦ということで力が入らなかった。後半走りが崩れていたがギリ1着だった。

8組3着 小南慧馬(4) 10.88(-1.5)

気温が高く体がよく動いた。実力的に次のラウンドはギリギリだったためタイムを狙うことのみ考えていた。スタートで大きく出ること、前傾を長めにとる意識を持つことがハマり強い向かい風の中ベストタイの記録であった。100mにおいてさらに上のステージへの可能性が見えたことは大きな自信になった。

男子 100m 準決勝

3組4着 室田竜磨(4) 10.82(-1.7)

アップの感触から自信はなかったが、スタート直前になってわんちゃん決勝いける感じはあった。スタートは悪くなかったが、前に出られたことで焦り顔をすぐに上げてしまった。その影響で2次加速がうまくいかず得意の後半も伸びなかった。100mは今年初めてということを見るとそこまで悪くはないが、明らかに仕上がりが遅い感触である。

DNS 小南慧馬(4)

男子 200m 予選

1組5着 長井颯馬(3) 22.78(-1.8)

5年ぶりとかの200だった。よく覚えていないが長すぎて疲れたのもうやりたくない。

6組4着 神近凜太郎(4) 22.54(-0.2)

少し遅めのシーズンインとなったが、及第点の走りをすることができた。スタートは余力を残しながら入ったため少し出遅れたが、向かい風の中でも後半上げることができた。

8組1着 室田竜磨(4) 22.01(+0.5)

リレーがなくなり暇になったので、欠場予定だったがタイムを狙って走ることにした。前半を押さえすぎてしまい、スピードが乗らなかった。アウトレーン向かい風強すぎて進んでいる感じがなかった。これがSBであるの考えると恥ずかしい。

男子 200m 準決勝

DNS 室田竜磨(4)

男子 400m 予選

4組6着 高野珀人(1) 51.40

SDは上手く蹴れたが、前半200mで力感が強くスピードを上げきれなかった。ホームストレートに入る前の切り替えができず東北ICと比べてラストが耐えきれていなかった。全体的に肩が上がった走りになり余計に消耗してしまっていた。

6組1着 岸本醒知(3) 48.51

北日本インカレは四継に照準を合わせていて400用の調整をあまり出来ていなかった影響か前半で無駄な力を使ってしまう。スピードに乗

り切れていない状態でホームストレートへ、余裕があったため楽に走ってゴール。

DNS 菅野涼太(M1)

男子 400m 準決勝

2組1着 岸本醒知(3) 47.53

予選で力を使いすぎたことで通常より疲労がたまった状態で迎える。予選で出来なかったスタートからしっかりスピードを出すことを意識して走った。疲労は溜まっていたが体は動き余裕を持って22.4で前半の200を通過。後半は切り替えを意識してうまくホームストレートに入ることが出来た。疲労も溜まっていたのでラストは余裕を持ってゴールした。

男子 400m 決勝

2位 岸本醒知(2) 47.39

昨日の準決の感覚を意識して走る。46秒台を狙いに行ったら前半で力を使いすぎてしまった。300mまではスピードに乗っていて余裕があったもののラスト50付近から一気に限界を迎え差されて2位でゴール。安定して前半を走れるように練習を積んでいきたい。

男子 800m 予選

1組6着 荒澤陽太(3) 2:00.10

大学に入ってから初めて対抗戦の正選手として出場した。結果はPB+0.5秒で、目標としていたタイムでの準決勝進出を逃してしまったが、たくさんの応援をいただき、今出せる力を出すことが出来た。また、東北インカレや七大会で正選手として出場している選手の凄さをより実感し、彼らと練習できる環境に感謝し、より成長していきたいと感じた。

3組4着 鈴木朝陽(3) 1:59.56

6番手で1周目を通過し、割と切り替えられたが3着には入らなかった。タイムで予選を通過できた。

6組6着 瀬尾祐太郎(3) 2:01.82

今回は機会に恵まれ、初めて対抗戦に正選手として出してもらいましたが、まだ他大の選手との力の差を実感しました。

男子 800m 決勝

3組4着 鈴木朝陽(3) 1:58.97

57で1周目を通過し、垂れてきた人を何人か拾って3着でゴール。最後200は止まっていたが、なんとか抜かせた。ハイペースだっただけに、タイムをもう少し出したかった。

男子 1500m 予選

1組10着 酒井笙太郎(2) 4:31.90

4月から何度も繰り返して来たのと同じ失敗をした。ビルドアップするつもりだったが2周目で降上がらず不甲斐ない結果になってしまった。中間巡行力が全くないので鍛錬を積み直したい。応援ありがとうございました。

2組4着 北嶋僚大(4) 4:06.11

スローペースで展開するも位置取りがうまくいかず、ラスト300m地点では7番手だった。そこからスパートをかけ順位を上げたが、3着以内には入らず4着でフィニッシュ。タイムで決勝に進んだ。

3組5着 サンプソン力(M1) 4:10.57

初めての日本での陸上大会に出場できて自己ベストを約8秒更新できたので嬉しかったです。全体的にイーブンで走れて前半も落ち着いて入ったので後半ペースを維持して少し上げることができました。シーズン前からジョグで距離を積んでいたので有酸素ベースが効いたのではないかと思います。一番大きな反省点としてはラスト400mを思ったほどあげることができなくてスパートに切り替えることができなかったことです。これを改善するには800mのスピード練習などの解糖系の練習を通して1500mのペースに余裕を持たせる必要があると思うので、距離をしっかりと踏みながら解糖系の練習ももっと頑張りたいです。

男子 1500m 決勝

6 位 北嶋僚大(4) 4:00.18

予想とは異なりハイペースでレースが進んだ。前半は余力を残し後半になるにつれて順位を上げていったが、先頭集団のラストスパートには対応できず、6 着でフィニッシュ。

男子 5000m 決勝

5 位 向田祐翔(M2) 15:07.30

悪天候によって牽制し合い、スローペースで展開され、4000m まで経過。残り 1000m でスパート合戦となり上位 4 名についていけずそのままゴール。

7 位 小林由輝(M2) 15:10.60

スローペースとなり 15 人ほどの集団でレースが進んだ。4000m からのペースアップに着いていき、8 人程に絞られた後、もう一段階ペースが上がった時についていけず 7 位で残り 1 周を迎えた。1 人に抜かされたものの、ラストスパートで 1 人を抜き返し、7 位のままゴールした。

27 位 仲神誠輝(3) 16:35.22

非常に不甲斐ない結果となってしまった。情けない気持ちで一杯です。1km 通過、2km 通過まで狙い通りのタイムで通過することができたが、そこからは大幅にペースが落ち込んでしまい最後まで立て直すことができなかった。終始苦しいレースであった。また、動画を見返すと走りに大きな乱れがあった。それには、調整段階で感じていた左脚の違和感が関係しているのかもしれないが、最後上げきれなかったのは自分の弱さが出たと思う。このようなことがないように、基礎練やポイント練を徹底するのはもちろん、レース当日までの負荷のかけ方や調整を考えたり、レース終盤まで乱れないような体幹をつけたりし、本番で外さないような意識も高く持っていきたい。

男子 10000m 決勝

4 位 照内優允(4) 32:04.83

曇りの予報だったが、少し日差しが出てきたことで、レースは 25 度前後でスタートした。誰も出る様子がなく牽制し合う形になったので先頭を引く判断をした。札幌学院の選手が 1000m 手前で出たが誰もついていかず 2 位集団が作られる形となった。何度か内側を開けたりしたが誰も出る様子もなく 4000m 手前まで集団を引っ張った。その後、他選手が出たがついていけそうなペースではなかったため下がった。5～6000m で気持ち悪くなってしまい、何度かもしかけ何度も辞めたい気持ちになったが、なんとかストライドを意識しペースを崩さず維持した。少しずつ落ちてきた人を拾いなんとかラスト 100m で 4 位に追いつきゴールした。今回良かったのは辞めなかったことだけ。気持ち悪さは 5 日前に大会に出場してた疲労と暑さによるものと考えられる。内臓が距離に耐えられるほど強くなかったといえる。このままでは予選会で戦うことができないため、より一層尽力していきたい。

男子 110mH 予選

1 組 8 着 大山幹生(4) 16.84(-1.3)

スタートを失敗し、うまく加速できないままダラダラゴールまで続いてしまった。次への課題が明確なのでまた頑張りたい。

男子 400mH 予選

3 組 3 着 堀航太郎(3) 54.60

人生 2 回目のレースだった。1 台目までのアプローチをゆっくり入りすぎたせいか、全体的にスローな走りになってしまった。前半で力を使いすぎたせいか、後半しんどくなり始めるのも早く、8～10 台目までは 17 歩になった。何とか 3 着でゴールして PB を 0.05 秒更新したが足首の違和感があったため準決勝は棄権することを決めた。伸ばせるところはたくさんあると思う。

4組5着 水澤大地(4) 55.83

前半攻めたレースを展開したが、前半型の自分は後半耐えることができなかった。

男子 400mH 準決勝

DNS 堀航太郎(3)

男子 3000mSC 決勝

9位 栗原壮太(1) 9:56.27

1000m はややスローペースで入り、2000m くらいまで3番手が見える位置で粘って走った。ここまである程度余裕を持って走れていたが、ラスト1周で上がりきらず2人に抜かれてしまい、9位でフィニッシュとなり悔しかった。これからさらにスピードを磨き、スパートで負けないようになりたい。

10位 山本創(M1) 9:58.19

まず、現状の走力として10分前後であると考えていたのでタイムとしては及第点です。

レース展開としては、最初前に出て集団をコントロールしようとしたのですが、1000m前に先頭を譲り、その後も基本的にイーブンペースで刻みました。

作戦としては、まず先頭に出てペースを抑え、中盤ほかの選手の仕掛けには反応せずに、後半落ちてくる選手を拾いながら入賞を目指していました。

基本的に目論見通りレースは進みましたが、先頭を明け渡すのがやや早くなってしまったことと、走力不足により入賞できずに終わりました。そのうえで、私自身としては妥当なタイムで走り、全体的な入賞ラインを引き下げるレース展開を作れたことは、入賞可能性を引き上げる点でよいレースだったと思います。

順位としては、どのような展開でもあまり変わらなかったと思いますが、入賞ラインとの差を最小限にできたことは収穫となりました。

技術でごまかすことも選手権においては重要ですが、今後しっかりと練習を積み走力を上げて、勝てる選手になります。

DNS 縣昌幸(3)

男子 5000mW 決勝

DNS 山中遼平(4)

男子 4×100mR 予選

DNF 小南(4)-白田(4)-室田(4)-岸本(3)

1 走で好調の小南が良い位置でバトンゾーンに入ったが、バトンパスで2走の手に渡る際に白田がバトンを掴み損ねて滑った形になり、DNFで終わった。宮城県選でリベンジします。

男子 4×400mR 予選

3組3着 高野(1)-堀(3)-岸本(3)-水澤(4)

記録：3:18.22

七大戦を見据えて新戦力の高野-堀-岸本-水澤のメンバーで挑んだ。1 走の高野は外のレーンの走者をうまく使いながらレースを進め4着でバトンパス。2 走の堀は前半から飛ばしていった金沢星稜大に着いていき順位をキープして4着でバトンパス。3 走の岸本は前半を落ち着いて入り後半にかけて上げていく走りを意識し1着で4走にバトンパス。4 走の水澤はバックストレートで2校に抜かされるも冷静に喰らいつく走りを見せラストを耐えきって3着でゴール。タイムでの決勝進出を決めた。なお、立て続けにある北大戦、宮城県選への調整、コンディション不良を考慮し決勝は棄権した。

男子 4×400mR 決勝

DNS

☆男子フィールド

男子 走高跳 決勝

15位 平山朝陽(M2) 185cm

シーズンベストの190を一回で跳べば表彰台もあったので悔しいです。チームに貢献できず申し訳ありません。

DNS 藤田想(M2)

DNS 鍵山弘樹(3)

男子 棒高跳 決勝

2 位 島村惟葵(M1) 4m80

助走から踏切を変えようとしていたが、うまくはまりきらずに空中動作に持っていかず 5m 以降は跳べずに終わってしまった。ただし、今後記録を伸ばすには必要な技術であると感じているので、試合と練習を積んでいきたい。

3 位 齋藤成輝(1) 4m60

大学に入って二戦目だった。コンディションは悪くなかったが、暑さに負けた。試合の方が質の高い跳躍ができるので、試合を積んで頑張っていきたい。ベストを出せるように考えて練習を積み重ねていきたい。

男子 走幅跳 決勝

26 位 塩川峻也(2) 6m24(-0.4)

初めて正選手として大きな大会に出て慣れないことも多かったですが、少し PB を更新出来ました。まだ他の先輩たちの記録には及ばないため今後の大会でも正選手に選ばれるように鍛錬します。

31 位 坂元泰(M2) 6.01(-1.1)

助走が安定しない試合だった。1,2 本目は近すぎて踏み切れず、3 本目で修正したが少し遠くて潰れてしまった。助走の安定性および股関節主導の動きをできるようにしていないといけなさと痛感した。

DNS 小南慧馬(4)

男子 三段跳 決勝

1 位 大谷航平(D1) 14m50(+1.3)

3 週間前の東北インカレの反省を踏まえて、助走スピードを上げる意識で臨んだ。気温は低めだったものの適度な追い風に恵まれ、東北インカレ時よりは助走が走りやすく、また踏切位置も安定していた。ただ、1~4 本目までは力みがあったことで踏切への入り方が悪く、ホップステップ辺りで前傾して距離が出ない跳躍が続いた。5、6 本目はここを修正できたこともあり

記録が伸び、最終 6 本目で 2 年ぶりの PB を出して逆転優勝を果たした。

ここぞという所で記録を伸ばせるメンタルを持ち合わせていたことは凄く良かったとして、まだまだ技術的には伸び代を感じられる内容であったため、今後は長年唱え続けている「部記録の更新」を目指してより一層精進していこうと思う。

6 位 久保田大聖(M2) 13m93(+1.2)

1 本目はステップが潰れ気味になったが、2 本目で上手く修正し、PB 付近の記録を出すことができた。後半 3 本の試技に進み、記録更新を狙うも技術的要素を噛み合わせることが出来ず、競技を終了した。納得のいく結果ではなかったが、北日本インカレでは初めて入賞することが出来た。まだシーズンは続くので、今回の反省を活かして大幅な記録更新を狙う。

13 位 石田開智(1) 12m95(-0.6)

三段跳は今回が大学初戦であった。ファールとなってしまった跳躍では良い動きができていたので、引き続き足腰を鍛えながら場数を踏んで記録を伸ばし、七大戦で活躍できる状態に仕上げていきたい。

男子 円盤投 決勝

9 位 鍵山弘樹(3) 35m32

フォーム改造のなかでの試合だった。一投目は落ち着いたターンができて 2nd ベストを残せたが、40m 投げたい気持ちを抑えられずターン速度が制御不能なほど速くなってしまい、その後は精彩を書いてしまった。入賞も逃して 6 本投げられなかったので非常に悔しい結果となった。以前より安定感を欠いているので、ベースを上げつつも再現性というところを意識した練習をしていきたい。

男子 やり投 決勝

3 位 増田併介(4) 55m

雨でグリップが濡れる前に記録を出しきれなかった。

20 位 清水颯太(2) 39m73

大雨に翻弄され、槍に指がかからなかった。焦っていつもの動きができず散々だった。

NM 石井誠大郎(3)

ノーマーク。しょうがない天気でした。

男子 十種競技

11 位 大泉宥太(3) 5063 点

ここ 2 年ほど不調が続いていたが、今回の競技はそれを打破するものとなった。まだ自己ベスト更新の余地を感じる。

DNS 金岡拓途(2)

☆女子トラック

女子 100m 予選

4 組 7 着 藤本心花(1) 13.49(-0.8)

前回の東カレよりも 0.5 秒縮まったので、この調子でタイムを戻していきたい。

DNS 白鳥名花(3)

女子 200m 予選

3 組 7 着 藤本心花(1) 28.04(+0.5)

受験明け初めての 200m だった。このタイムを基準にまた頑張りたい。

DNS 白鳥名花(3)

DNS 白井千晴(3)

女子 400m 予選

DNS 建部亜美(3)

DNS 白井千晴(3)

女子 800m 予選

1 組 3 着 喜多和奏(4) 2:20.83

最初に一番前に飛び出てペースを維持するというレースプランのとおり、600m まで先頭で集団を引っ張る。その後スパートをかけたであろう 2 人に抜かれるも、焦らず 3 着を死守することだけを考えて力まず前に着いていきゴール。

1 組 5 着 西山知佐(3) 2:29.00

1 週間前に発熱し、前日に軽く捻挫するという体調や身体の管理不足で、思ったような結果が出せなかった。また練習を積み、ピーキングも含めて試合に望む準備をしっかりしたい。

2 組 1 着 佐伯紅南(2) 2:19.86

着順で必ず決勝に行くことを目標にしていた。最後はペースを上げたが、余裕を持って走ることが出来た。

女子 800m 決勝

1 位 喜多和奏(3) 2:15.37

スタートでうまくスピードに乗れず、少し脚を使いながら二位につく。4400 通過 69 秒の表示を見て想定よりだいぶ遅いことに少し焦り、一か八かで勢いよく前に出て逃げ切り作戦を執行。500m、600m 地点で後ろを突き放すイメージで小出しでブーストをかけた。最後まで危なげなく、先頭を守ったまま、一着でゴール。ラップはネガティブだった。

3 位 佐伯紅南(1) 2:17.22

600m までにはいつもの自分の動きが出来ていた。しかし、前の 2 人に離され、諦めてしまった部分があったと思う。優勝を狙っていただけに、とても悔しかった。

女子 1500m 決勝

7 位 越後谷苑葉(3) 4:57.31

第二集団後方につくかたちでレースを展開。残り 1 周で徐々にペースが上がり始め、バックストレートで切り替えるも、十分に上げきれずに 7 着でフィニッシュ。目標としていた 5 分切りは達成することができた。

女子 5000m 決勝

2 位 鳥居夕里佳(1) 17:15.56

C 標準が目前にあったため、とても悔しい。実力不足でラストで負けてしまったと思う。東北インカレよりはタイムを上げることができ、状

態は戻りつつあるので、北大戦、七大战に向けスピードを強化していきたい。

女子 400mH 予選

DQ 建部亜美(3)

10 台目直前にもつれて転倒してしまい、DQ となった。8 台目での歩数調整に失敗し、立て直せずに直前で詰まったため、足がもつれた。ハードル間の歩数を昨年とは大幅に変更し、前のレースとも少し変えたため、今後は今回の反省を生かし、歩数を考えていく必要があると感じた。

女子 4×100mR 予選

DNS

女子 4×400mR 決勝

DNS

☆女子フィールド

女子 走高跳 決勝

NM 鈴木碧恋(M2)

助走が合わずに終わってしまった。今後に繋げたい。

女子 走幅跳 決勝

15 位 大槻真優(4) 4m90(+1.0)

助走、踏切共に調子は良かったが、踏切で後傾して反ってしまう最近の癖を修正することができず、記録を伸ばせなかった。

17 位 末岡由衣(4) 4.76(+2.1)

1 本目で足を痛めたが、冷やさずほぐしてなんとか 2.3 本目を跳べた。板との距離がおかしくなり、助走合わせに苦勞した。

DNS 古閑詩季(3)

女子 円盤投 決勝

4 位 五嶋理子(3) 37m77

試技中の動きの修整、コンディショニングの調整ができた。大学に入ってから一番いい試合運びだったと思う。PB を大幅に更新できてよかった。もう少し記録を伸ばせたと思うが 6 本全力で投げきる体力が足りていないと痛感した。

◎第 87 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 兼

第 39 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦～東山公園陸上競技場～

6/27(土)に、北海道岩見沢市の東山公園陸上競技場にて第 87 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 39 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦が開催されました。男子は総合二連覇、女子は総合 2 位という結果でした。雨上がりで気温は高くなく肌寒い気候の中ではありますが、多くの選手の素晴らしい活躍が見られました。以下に対校得点の結果と対校種目に出場した選手の選手報告を紹介します。

●総合結果

男子	得点	順位	女子	得点	順位
トラック	57	2	トラック	26	2
フィールド	55	1	フィールド	19	2
総合	108	1	総合	45	2

●選手報告

☆男子トラック

男子 100m 決勝

2位 岸本醒知(3) 10.87(-0.6)

100m はシーズン初レース。スタートから前傾を維持することを意識するも 3 歩目で接地がはまらず体が浮いてしまう。そこからは立て直しスムーズに走ることができた。やっと 10 秒台。

4位 堀航太郎(3) 11.25(-0.6)

100m はシーズン初戦でした。リアクションは良かったが、加速のキレがなく前半から前に置いて行かれる展開になってしまった。タイム自体は去年の同時期より若干早いので、ss の技術を磨いて今シーズン中に 10 秒台出せるように鍛錬していこうと思う。400m を伸ばすためにも必要な課題だと感じた。

5位 新田琥太郎(3) 11.41(-0.6)

オープンの選手に劣る始末。意味ない。

男子 200m 決勝

4位 細川翼(3) 23.79(-3.0)

1 年ぶりの正選手でした。前半のカーブではスピードに乗れていい走りができてと感じています。ホームストレートに入り、向かい風に煽られてからは力が入り、硬い走りになってしまいました。感覚自体は悪くなかったので今季中に自己ベストを出せるように頑張ります。

5位 根本陽大(4) 24.19(-3.0)

同時刻に出場していた三段跳の試技中に脚を攣りかけてしまい、直前までストレッチなどをしたものの、結局治ることはなく、足に力が入らないままレースを終えた。怪我をしなかったことだけが唯一の救いだったが、不完全燃焼となってしまった。

DNS 新田琥太郎(3)

男子 400m 決勝

1位 岸本醒知(3) 47.86

前半からしっかり楽に飛ばすことを意識するも楽をしすぎてしまい前半を 22.6 で入る。200 通過から切り替えは上手く行ったもののホームストレートで風に阻まれ 47.86。46 秒台の道は遠い。

2位 渡邊優典(4) 49.74

48 秒台を狙って入りの 200m を 23"26 で突っ込むも、後半脚が回らず 2 着でフィニッシュ。

6位 佐藤友星(1) 55.99

穴があったら入りたい。

男子 800m 決勝

1位 渡邊優典(4) 1:53.35

1 周目を北大の高橋(M1)が 54 秒を切るハイペースでレースをつくり、私は 54 台で 1 周目を通過。

バックストレートで高橋に追いつきそのまま差を広げて一着でフィニッシュ。

400m の疲労が残っていた中で、後半脚が回らなかったが極端にスピードが落ちることもなく良かったと思う。

3位 金子宙生(2) 1:56.69

1 周目は、いつも通り後ろから着いていく戦い方をとる。ホームストレートで追いつき、4 番手で 2 周目にはいる。500m を過ぎたあたりで、前が落ちてきていたので、前に出て 3 番手に。それ以降は、うまく体が動かさず、そのまま 3 番でゴール。最後の動きに後悔が残る結果になった。

5位 鈴木朝陽(3) 2:00.68

スタートから速く、想定以上だったので着くので限界だった。500 辺りから動かなくなり、得点圏内にも入れず終わってしまった。申し訳ない。

男子 1500m 決勝

1 位 縣昌幸(3) 4:00.71

800 まで先頭が早く置いてかれてたが、3 周目のラップが緩んでくれたおかげで、回復して、競り勝てた。

4 位 伊藤大智(1) 4:10.76

最初から前に着くことを諦めてしまった。走り終わったあとも余力を感じたため、正選手として出させてもらったのにとっても不甲斐ない。

DQ 石川悠斗(1)

初めての試合でとても緊張してしまった。久しぶりに走れて楽しかった。

男子 5000m 決勝

3 位 竹田佳人(4) 16:05.87

力不足でした。全日本大学駅伝予選会にむけて精進します。

5 位 及川寛人(2) 16:28.59

スタートすると北大の選手が前に出て 2 分台のペースで進み、今思えばそこにつくべきだったが経験不足と勇気のなさからつかない選択肢をとってしまった。ここが今回のレースの 1 番の失敗と後悔であった。対抗で出ている立場として点を取らなければいけないのに序盤から消極的になってしまった。ずっと風を受けていたせいなのかどうか分からないが体感とペースがあわず、上手く走れなかった。目標には及ばず非常に悔しい結果となったが、今回対抗戦に出させていただいた経験をしっかり噛み締めて成長につなげる。

6 位 稲垣俊輔(2) 16:38.14

エントリーの時点で他選手との明らかな実力差があったものの、最近の練習の調子から初めて対校選手として選出されたレースでした。1000m 通過が 3 分 9 秒あたりで、自分の実力に対してオーバーペースであったので、多少の焦りはありましたが、単独走になるより集団で走った方が賢明であると判断し、及川について行くことにしました。2000m 通過あたりから 3'20

くらいのペースにはまってしまい、及川との差も少し開き、その後追いついて前に出てからもペースを安定させることができずに、抜かし返され、置いていかれることとなり、納得のできない結果となりました。PB ではあったものの、対校選手として選出されたことに応えられるような走りではなかったので、これ以降のレースに繋げられるよう練習に励みます。

男子 4×100mR 決勝

1 位 小南(4)-鍵山(3)-根本(4)-岸本(3)

記録：41.69

人員が揃わない中急造チームでの出場となった。バトンの練習を全くしていないかつ、各々他種目出場による疲労がある中で思ったより各区间のバトンがうまく繋がり、無難にまとまったレースとなった。

リレー初経験のメンバーもいる中で今回のレースは、東北大のスプリント能力そのものが底上げされていることを裏付けているといえる。。

男子 4×400mR 決勝

1 位 渡邊(4)-堀(3)-岸本(3)-金岡(2)

記録：3:21.32

渡邊-堀-岸本-金岡の前半逃げ切りレースを仕掛ける。1 走の渡邊は安定した走りを見せ 2 着でバトンパス。2 走の堀は 200m 通過後カーブで勝負を仕掛け北大を抜かす。20m 程度リードしてバトンパス。3 走の岸本はそのまま差を引き離し 50m 程度にリードを広げ 4 走にバトンパス。4 走の金岡は前半を抑え北大に差を詰められるも後半で出力を上げ 1 位をキープしたままゴール。無事に勝ち切ることが出来て良かった。

男子 110mH 決勝

1 位 鍵山弘樹(3) 15.21(-1.0)

東北インカレ以来一度もハードルをとんでいなかったのが不安だったが、あまり考えすぎずに走れて力の抜けたいい走りができた。足も痛めていたので、要所要所脱力することを意識して

走ったらうまくいった。大きな課題が見つかり、内容的にタイムは上々だったので良いレースだった。次の七大戦に繋げたい。

5 位 橋本盛太郎(1) 16.52(-1.0)

ハードルの中間疾走での精度の低さ、スタートなど課題を多く感じた。課題を絞って練習していきたい。

6 位 金岡拓途(2) 16.75(-1.0)

突然の出場であまり準備ができておらず悔しい内容となったが、この経験も次に活かしたい。

男子 400mH 決勝

1 位 堀航太朗(3) 54.70

100 の後であったため体は比較的動いていたが、サブトラなどはないためハードルの足合わせはなしでいった。バックストレートが強い追い風であったため前半は楽に刻み 5 台目から切り替えていこうというレースプランで挑んだ。前半楽にしようとしすぎてタッチダウンは遅かったが、後半の垂れを先週より抑えることができ 9 ～10 台目も 15 歩で行けるのではないかと感じた。後ろを気にすることなく 1 着でゴール。今はどんなに走っても 54 後半は楽に出せることが分かったため、次の機会に前半からタイムを狙いに行って 53 を出そうと思う。

4 位 金岡拓途(2) 60.37

こちらも準備不足が否めなかったがなんとか走りきって得点することができて良かった。

男子 3000mSC 決勝

1 位 松本諒哉(2) 9:51.43

3000mSC に出場するのは 2 年ぶりだったため、どのくらいのタイムが出るか分からず緊張しました。スタート直後誰も先頭に出ない様子だったため自ら先頭に出てレースを進めました。そのせいか、一周目思ったよりも早いスピードになってしまい体力を消耗してしまいました。ずっと独走だったとはいえ、満足のいかないタイム、レースでした。走力不足を感じたため、練習

してベストを出せるように頑張っていきたいです。応援ありがとうございました。

2 位 城田健悟(3) 10:00.81

ホームストレートの向かい風が非常に強かった。東北インカレでは向かい風が強くなったタイミングで前に出ざるを得なくなり、そこでばててしまったので今回は前の人を使ってとにかくつくことだけを意識した。結果的にタイムは全く良くないが、ラスト一周で前に出てペースを上げたことで相手を離し、スパートで何とか北大の 3 人に負けることなく 2 位で終われた。西郷は良かったが、普通の障害がうまく跳べていないので修正する。

6 位 鈴木拓真(4) 10:59.55

タイムを見てもレース展開を見ても非常に悔しい結果となった。練習量と質がベストに全く届いておらず、レースに出場すること自体が自身にとっては挑戦だった。しかしその中でも会場で応援してくださる方々の声援のおかげで走り切ることができたと同時に自身の今の全力を出し切ることができた。最後まで戦わせてくれた皆さんに感謝すると共に駅伝を見すえて残り短い大学生活を走り切りたい。

男子 5000mW 決勝

1 位 田中澤(2) 22:29.87

申請タイムからして自分が引っ張ることは確定していたので最初から前に出て自分でペースを作った。一キロ通過の前後で三人からロスオブのパドルを出されてしまい、いきなり失格になりかけたが、何とかペースを調整したり、歩形を立て直したりしてカードは出されずに済んだ。常に後ろにつかれた状態で、失格の危機もあり、メインストレートではかなり強い向かい風が吹いていて、後ろから利用されているように感じていたので、トップを維持できるか不安ではあったが、案の定三キロ手前から後ろの息遣いなどから疲労を感じて、少し離れたように感じたので、そこからペースを少し上げて、突き放し

にかかった。うまく差をつけることができたので、そこからはペースを維持して、詰められないようにした。反省としては、最近のポイントで歩形をおざなりにしてスピードだけを意識してやっていたのが、パドル 4 枚につながったと思う。メタスピードとマジックスピードでいろいろ違うので、普段からメタスピードでポイント練をして浮かないように意識したい。

☆男子フィールド

男子 走高跳 決勝

2 位 柴田駿吾(4) 180cm

今回の試合は直前の技術的な調子、パーキングを大きくしていないことなどから、記録をそこまでは狙わず、安定して技術を再現できることに重きを置きました。その中で、安定した助走と練習ではできていなかった流れない踏切で跳躍ができたことはとても良かったです。ただ攀り気味になってしまったことは課題なので、この課題に対処しつつ、七大戦までにリスクをできるだけ負わずに記録を伸ばすためにできそうなことに取り組んで自己ベスト更新を狙いたいです。応援ありがとうございました。

5 位 大泉宥太(4) 170cm

北日本インカレの疲労を残しながらの競技だった。対校得点に貢献できなかったが、十分に内容の伴う競技ができたかと自負している。

6 位 湖東望(1) 165cm

悔しいです。助走を根本的に改善したいと思います。

男子 棒高跳 決勝

1 位 齋藤成輝(1) 4m40

連戦だったので、2 日前調整で試合に挑んだ。体が全然動かず、横風が強かった試合で 4m40 から始められたのは収穫だった。結局 1 本しか有効試技が出来なかったが、今後さらに練習を積んで強くなりたい。足を速くする。

2 位 鍵山弘樹(3) 4m00

あまり気合いが入ってなかった故か、脱力できた良い助走から迷いないポールセットと踏切ができた。対抗戦なので、400 を一回でとべなかったのはとても悔しい。リレーを走って戻ってきたら 440 になっていた。結果的には失敗したが、今までの試合と違って、高さにビビらず、力まず、気負わず、3 本ともしっかり空中まで持って行けた点で成長を感じた。

4 位 大泉宥太(4) 2m80

北日本インカレの疲労を残しながらの競技となった。順位を上げることが難しいと判断したため、技術の再現を優先した。有意義な試技が多かったと感じる。

男子 走幅跳 決勝

1 位 早藤海音(3) 6.98(+3.0)

試合中は助走の感覚は悪くないと感じたが、おそらく適切な助走より長くなってしまっていた。しっかりと修整したい。

5 位 石田開智(1) 6m20(+4.0)

ピーキング、ウォーミングアップ等試合に臨むまでの準備が疎かであった。また 6 月頭の記録会では良い形で踏み切れていたが、今回は踏み切り時に潰れており記録に繋がらなかった。風の強い中での試合で接地のアクセントを取ることに苦戦した。対抗戦等順位を狙って行く試合でもしっかり結果を残して行きたい。

DNS 鍵山

男子 三段跳 決勝

1 位 早藤海音(3) 14.02(+2.6)

走幅跳が終わってすぐの競技だったため疲労があった。最初の 3 本で記録をちゃんと出せるようにしたい。

2 位 奈良隆ノ介(3) 13m77(+3.7)

2 本目でそこそこの記録が出たもののそれ以降出力を上げようとして軽く怪我をしてしまいうまく試合をまとめられなかった。ちゃんと練習して適当な跳躍の回数を減らしたいと思う。

6 位 根本陽大(4) 12m43(+4.6)

試技の途中で脚を攣りかけ、また同時刻に行われた 200m にも出場したこともあり、脚の疲労が限界を迎え自分がやりたかった跳躍を一切やるができなかった。また、全助走での練習を全然積めてなかったので、スピード耐性をつける練習をしていきたい。

男子 砲丸投 決勝

1 位 松下典弘(2) 11m83

セカンドが安定せず、4 ファールしてしまった。125.5 の砲丸に慣れてなく、押し感が掴めなかった。脱力して 11m 後半が安定してきたので、地力を上げて 12m を安定させる。

2 位 谷地穰太郎(3) 10m65

自己ベストと 11m を目指して臨んだ一戦だったが、届かなかった。評定にある砲丸よりわずかに大きく、違和感があり、全体を通して砲丸が手から抜けてしまうような投擲になってしまった。それでもそれまでのシーズンベストを 30 cm ほど更新できたことは評価したい。七大戦に向けて、腕、下半身の出力をさらに上げるためにすべてのトレーニングで質にこだわって取り組みたい。

3 位 鍵山弘樹(3) 10m50

脚を痛めていたので 1 回だけ投げた。しっかり押せた感覚があってよかったが記録は伸びなかった。七大戦までは砲丸の練習を重点的にやりたい。結局、谷地くんに負けて 3 位になってしまい少し悔しかった。

男子 円盤投 決勝

1 位 鍵山弘樹(3) 32m69

ファールが 5 本と散々だった。何をどう反省すべきか、手のつけようがないのでこの試合は忘れることにする。フォーム改造を続けようと思う。

2 位 金岡拓途(2) 32m42

自己ベストを更新しての 2 位だった。まだ技術的な課題は多いので、七大に向けて改善していきたい。

3 位 石井誠一郎(3) 28m05

練習不足。右足で溜めを作れるようにする。

男子 ハンマー投 決勝

1 位 富家彬就(M2) 42m96

ターンの入りを大きく変えたばかりだったが、SB を更新する投擲が出来たのは良かった。特にキャッチ後の加速の感覚やフィニッシュの動きは PB を出した時以上の手応えだった。それだけに、3,4 ターン目でキャッチが少し遅れる点を試技の中で修正しきれなかったことが悔やまれる。来週の宮城県選までにしっかりターン練習を積み、PB 更新を目指す。

3 位 石井誠一郎(3) 29m86

ベストを出せて良かったが、30m のラインを越せなかったのが悔しい。技術を磨いて、より気合を入れて投げる。

4 位 谷地穰太郎(3) 27m21

2 回転に挑戦して初めての公式戦で、序盤は落ち着いて投げることができた。しかし後半になるにつれさらにいい記録を出そうと焦りが出てしまい、安定性を失って記録を伸ばすことができなかった。次の公式戦に向けて回転技術を磨き、まずは 30m を突破できるようにしたい。

男子 やり投 決勝

1 位 増田併介(4) 59m67

一位をとって得点を持って帰って来れたことは良かったが、保持位置と下半身の使い方が良くなかった。

2 位 神篤朗(2) 53m22

ブロックが潰れたりして思うように投げられなかった。アベレージが低い。でも改善点であっ

た右にそれるが無くなったし、課題も見つかった。次回の試合までに改善できるようにしたい。

3 位 石井誠太郎(3) 50m28

来週頑張ります。

☆女子トラック

女子 100m 決勝

2 位 藤本心花(1) 13.54(-1.3)

スタートがあまり上手く出られなかった。後半はまだましだったと思う。

3 位 上田綾乃(2) 13.90(-1.3)

今季初めてスタートがはまった感覚があった。後半までスピードが保てなかったのも、また積んでいきたい。

女子 400m 決勝

2 位 建部亜美(3) 1:04.08

PB まであと 0.3 秒ほどだったので悔しさが残った。前半で隣のレーンの人と並んだ時に力んで少し早めに 200m を通過してしまい、ラストの 60m あたりで垂れてしまった。まだ腰が低いように感じるのを意識しながら練習していきたい。

4 位 越後谷苑葉(3) 1:06.3

1500m から約 30 分後の出走だった。序盤は脱力し、後半まで余裕をもって走るつもりが、想定以上にスピードが出てしまう。後半は垂れてしまったものの、最低限点数をとることはできた。

DNS 白井千晴(3)

女子 800m 決勝

4 位 越後谷苑葉(3) 2:28.84

疲労もあり、最後まで維持できるペースで入ることにしていた。500m 通過後に西山（東北大）に越されるも、コーナーで脚を溜めて直線で抜き返す。スパートの伸びが甘かったが、なんとか 4 着でフィニッシュ。

5 位 西山知佐(3) 2:29.22

連戦が続く、レース 1 本の重みが軽くなってしまった。レースに望む気持ちを作ることができなかったことが今回は一番の反省だと考えている。どんな試合でも結果がよくなければ悔しいのは当たり前なので、最大限の準備は整えて試合に臨むようにしたい。

6 位 松本葉那(3) 2:36.51

怪我復帰後初の 800m。人数が少なく他の選手は皆実力のある選手だったため、展開としてはずっと最後尾を走ったため割愛。ラップは 35"92-38"59-40"16-41"84 で、大きくタレたわけではない(=展開・配分によるロスが大きかったわけではない)ため、ただただ走力がまだ足りていなかったという事実がすごく悔しい。この記録は私が中学生の頃の記録とほぼ変わらないため、周りが全カレ出場や PB・UB を決めていく中で、私だけ取り残されてしまって情けない。北大ミドルの選手コーチをされている方から、女子は特に有酸素を伸ばす必要があると助言をいただき、実際私が高校の時に大きく PB 更新したときは有酸素メインで練習していたため、その方向で秋口まで練習を積んでいきたい。

女子 1500m 決勝

1 位 佐伯紅南(2) 4:43.20

レース直前に気温が少し下がり、風も強かった。1 週間前の北日本インカレでは、自分の強みであるラストのキレを発揮することが出来なかった。今回は自分の強みを確認するという位置付けだった。ペース変動が大きいレースだったが、残り 250m ほどのスパートをかけ、1 着でフィニッシュ。UB かつ大会新を出すことが出来て嬉しかった。

5 位 越後谷苑葉(3) 5:13.93

集団にくらいつこうとしたが、ペースに余裕をもつことができずに 400m 通過後から徐々に離される。後半から一気に失速し、5 着でフィニッシュ。

女子 3000m 決勝

2 位 鳥居夕里佳(1) 10:17.03

最初からラスト 100m までずっと先頭で引っ張るレースは初めてだった。今回のレースもラストで負けてしまい悔しかった。七大戦に向けて少しでも調子を上げられるように練習を頑張りたい。大学に入って思うようにタイムが出せていないので、一回一回の練習で課題を持って取り組むようにしたい。

5 位 塩見薫(4) 11:23.96

4 着を目標に序盤は自分のペースで最後尾で走った。途中で 4 位の選手に追いついたものの、ラスト 100m で粘ることができず 5 着でゴールした。

女子 4×100mR 決勝

1 位 平山(2)-上田(2)-大槻(3)-藤本(1)

記録：52.36

直前まで出場選手が定まらず、練習不足が否めない中で本番を迎えたが、それぞれが当日のベストを尽くして 3 走まで大きなミスなくバトンを繋いだ。3 走から 4 走へのパスではロスが生じてしまったものの、4 走の藤本が北大を追い上げて一着でフィニッシュした。

女子 100mH 予選

1 位 上田綾乃(2) 16.80(-2.8)

激強向かい風の割には動きもタイムも悪くなかったと思う。直前の 100m がいい刺激になった。次は 16 秒前半を出したい。

5 位 建部亜美(3) 19.01(-2.8)

全体的にハードリングで浮いてしまった。逆足で大幅に減速してしまい、練習不足を痛感した。PB を出したい気持ちはあったが、北日の 400mH のように転倒しなかったのが及第点だと思う。

☆女子フィールド

女子 走高跳 決勝

2 位 伊藤真奈美(3) 145 cm

2 月に怪我をしてから跳躍練も積めず、不安が残る中での競技でしたが、最低限の復帰戦となって良かったです。七大に向けて戻していけるよう、頑張ります。

4 位 鈴木碧恋(M2) 140cm

北日から修正はできたが、SB の更新はできなかった。しかし改善点は見えたので意義のある試合になった。

女子 走幅跳 決勝

2 位 平山梨緒(2) 4m81(+3.6)

今回は助走距離の調節と助走の走りがうまくいわずに記録が安定しなかった。自分の感覚的にも、実際動画で見た動きも腰がのっていなく、体幹部が抜けていてスピードに乗れなかった。うまく腰が進む助走の再現性を高めることと引き続き全助走で跳躍の流れを安定させることに焦点を当てて練習していきたい。

3 位 末岡由衣(4) 4m79(+2.9)

助走の走りはよかったが、1.2 本目は踏み切れず、3 本目以降は板に乗らなかった。6 本跳ぶ際の出力の出し方がわかっていない感じがしたが、6 本目は最後の踏切で萎縮してしまっていたが、助走に関してはうまく出力が出せたと思う。力強か踏み切れるよう鍛錬する。

4 位 大槻真優(3) 4m74(+3.2)

直前の 100m から落ち着かず試技を始めてしまい、前半は足合わせに苦戦した。後半は疲労が出てしまい思うような跳躍をすることができなかった。最近直そうと意識していた踏切時に後傾する癖は修正されつつあり、記録は伸びないものの収穫はある試合だった。

女子 砲丸投 決勝

2位 五嶋理子(3) 8m98

やり投げと円盤投げの疲労があり、試技中に動きを修整できなかったが、6本投げきることはできた。目標記録には及ばず残念な結果だった。

3位 伊藤真奈美(3) 8m57

去年の北大戦のPBを大幅に更新することができました。怪我で歩けない間にも補強を頑張っていたことが報われ、嬉しいです。今後も精進します。

女子 やり投 決勝

2位 伊藤真奈美(3) 30m13

怪我明けの初戦ということで、30mを目標に出場しました。目標を達成できて良かったです。

七大ではPBを出して、少しでも多くの得点を持って帰れるよう頑張ります。

4位 五嶋理子(3) 23m59

練習不足を感じた。メインの円盤投げの動きをやり投げに応用しようと試したが記録につなげることができなかった。

5位 平山梨緒(2) 19m10

走幅跳と時間が被ってしまい、3本パスになってしまったのでしっかり投げられた回数が少なくなってしまった。投げられた3本も、記録を残しにいった投擲と助走の時点で上手くいかないと感じた投擲になってしまい、去年より記録を伸ばせなかったのが悔しかった。



◎主将・女子主将・各 PC より七大戦への抱負

全国七大学対校陸上競技大会が 7 月 24~26 日の 3 日間にわたって、福岡の博多の森陸上競技場にて開催されます。七大戦を迎えるにあたり、主将・女子主将、各 PC からの抱負を以下に紹介します。応援のほどよろしくお願いいたします。

◆主将 大泉宥太

主将を務めております、大泉宥太です。

日頃より三秀会の皆様には、温かいご支援、ご声援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度の七大戦は、「男女総合優勝」を目標に掲げています。今年は競技会運営規則の変更に伴い、OP 種目の削減や 3 日間開催など、例年とは異なる大会運営となります。しかし、今のチームであれば、こうした変化にも柔軟に対応し、乗り越えられると確信しています。

今シーズン最初の対校戦である東北インカレでは男子総合二連覇、トラック・フィールド完全優勝を達成し、続く北大戦でも男子総合優勝を果たすなど、チームとして非常に良い流れをつくることができました。これらの結果は、部員一人ひとりが「勝負に勝つ」という意識を持って競技に臨んだ成果であり、同時に、PC 陣を中心とした日頃の指導や組織づくりの積み重ねによって、4 年生だけでなく 1~3 年生も着実に力をつけてきた結果であると感じています。

主将として迎える最後の七大戦となりますが、頼もしい PC 陣、そして部員全員とともに、男女総合優勝に向けて全力で戦い抜きます。

三秀会の皆様には、引き続き温かいご支援、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

◆女子主将 喜多和奏

女子主将の喜多和奏です。

はじめに、日頃から陸上競技部の活動を支えてくださる OBOG の方々に感謝申し上げます。皆様の多大なご支援、ご協力により大会等の遠征や、日々の充実した練習ができております。この度は七大戦の抱負についてお話させていただきます。

今年の女子パートは、七大戦女子総合優勝を目標に掲げています。昨年は、男女合わせての総合優勝を達成することができましたが、女子パートとしては、SB ランキングで 1 位であったにもかかわらず、女子総合優勝には届きませんでした。記録上は十分に戦える力がありながら、それを本番の得点に結びつけきれなかったこと、そして男子の活躍の陰に隠れる形で大会を終えてしまったことに悔しさが残る結果でした。もちろん「男女総合優勝」を達成したことはチーム全体として大きな成果でしたが、私たちは、その結果に満足して終わるのではなく、「女子も自分たちの力で勝ち切った」と胸を張って言えるチームになりたいと考えています。だからこそ今年は、男子・女子それぞれが総合優勝を果たす「完全優勝」を目指します。

今年の七大戦は、暑熱対策等の関係で、全てのトラックレースがタイムレース、一部のフィールド種目で 2+3 の試技形式が採用されるなど、例年とは異なる形で行われます。そのため、予選・決勝と勝負の流れを作ることや、複数本を通して順位を上げていくことが難しくなる分、一本のレース、一回の試技で確実に記録を出し、他校の選手に打ち勝つ力が求められます。これは厳しい条件である一方で、私たちにとっては一発逆転のチャンスでもあります。

また、今年から女子種目に 1500m と 5000mW（後者は一位一点のみのプレ開催）が導入され、女子パートとしても得点の可能性や戦略の幅が広がりました。新しい種目を含めて、一人ひとりが自分の役

割を理解し本気で4位以内を狙う姿勢を持つことが総合優勝には不可欠です。エースだけが勝つチームではなく、出場する全員が得点に関わり、正選手以外も含めてチーム全体で戦う女子パートを目指します。

東北インカレ以降、女子パートは非常によい雰囲気練習を重ねてきました。これを執筆している今現在は七大戦の正選手選考の最中ですが、各選手が強い思いを持ち、互いに刺激し合いながら正選手争いを繰り広げています。この練習や大会での競争や努力の姿勢は、お互いに良い影響を与え、チーム全体の力を確実に引き上げていると感じています。

最後に、今年の東北大学陸上競技部女子パートは強さと勢いを示し、九州・福岡の競技場をさらに熱くしてまいります。今後とも変わらぬご声援のほど、よろしくお願いいたします。

◆短距離 PC 新田琥太郎

短距離パートキャプテンを務めております、新田琥太郎と申します。はじめに、この場をお借りして日頃より陸上競技部の活動を支えてくださっている OB・OG の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご支援、ご協力に我々は背中を押されています。

七大戦が1か月前までに迫ってきました。昨年短距離パートは北海道で行われた大会で、男子200m、400m、4×400mでの優勝をはじめとし、その他の種目でも入賞者が出て、合計28点を獲得し、部の総合優勝に貢献しました。今年の大会でも昨年度得点した学生が多く出場することになっており、男子400m、4×100mの部記録更新や、200mでの東北インカレ入賞をはじめとし、パート全体として調子を上げてきています。私を知る限りでは史上トップレベルに層が厚い状態になっています。その反面、他大学も史上トップレベルに高いレベルでの資格記録となっています。猛暑による変則的なタイムテーブルになったりといろいろなことがあります。短距離パート一同全力で戦ってまいりますので応援の方よりしくお願いします。

◆ハードル PC 長井颯馬

ハードルパートリーダーの長井颯馬です。まず、先日本番用のハードルを新しく3台購入していただきました。私たちがこのように公式戦を見据えた充実した環境で日々の練習に励めるのは、OB・OGの皆様をはじめとする多くの方々のご支援があつてのことです。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

今年の七大戦において、ハードルパートは「出場選手全員の PB 更新」を最大の目標に掲げます。この目標を達成するためには、パート全体の底上げが不可欠です。昨年度は私を含め怪我人が多く、チームとして苦しい時期を経験しました。その教訓を活かし、今シーズンは「全員が怪我なく万全の状態で挑むこと」を第一に置き、練習の質を高めてまいりました。

パートリーダーとして、選手全員が七大戦という大舞台で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、全力でサポートしてまいります。今後ともハードルパートへの温かいご声援をよろしくお願いいたします。

◆中距離 PC 鈴木朝陽

中距離 PC を務めております鈴木朝陽です。この場をお借りして、OB・OGの皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。この度は、中距離パートの七大戦に向けた抱負を述べさせていただきます。

今年度の七大戦における目標は、昨年に引き続き「ミドル優勝」です。男女800m、男女1500m、女子3000mの総得点で1位を目指します。昨年は男女800mで東北大の選手が揃って優勝する活躍もあ

り、ミドル優勝を達成することができました。今年は女子1500m が新しく追加されたり、男子800m がタイムレース決勝になったりと、例年とは異なる形式となっております。パート内でも十分な対策をして臨みたいと考えております。

今シーズンの中距離パートでは東北インカレにて縣(3年)が800m、1500m で優勝、北日本インカレにて喜多(4年)が800m で優勝し、ともに全日本インカレ C 標準を突破しております。昨年から多くの選手が力を付けて、そこに力のある1年生も加わり、非常に勢いのあるチームへと成長いたしました。七大戦でもこの勢いのまま、全力で勝負に挑んでまいります。

最後になりますが、今後も競技に励んで参りますので、OB・OGの皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆長距離 PC 山内滉介

長距離パートのPCを務めております、3年の山内滉介です。OBOGの皆様、平素より多大なるご声援、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今シーズンの長距離パートは、春先から多くの部員が順調に練習を積み、着実に記録を伸ばしています。日々の練習から互いに競り合いながら取り組み、非常に良い状態にあります。先日行われた東北インカレでは、上級生が粘り強さを発揮し、下級生が勢いのある走りをして多くの得点を獲得し、チームの2連覇に貢献することができました。

来る七大戦においては、他大学のレベルも非常に高いため、入賞争いはかなり激しいものになると予想されます。しかし、我々も着実に力をつけてきました。最後まで1秒を削り出し、1点でも多く獲得して東北大の2連覇に貢献してまいります。

そして、七大戦終了後には全日本大学駅伝東北地区予選会が控えております。昨年の雪辱を果たせるように、チーム一丸となってさらに精進してまいります。

最後になりますが、今後とも変わらぬご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆跳躍 PC 柴田駿吾

跳躍パートPCを務めさせていただいております、柴田駿吾です。OB・OGの皆様におかれましては日頃より多大なるご支援を賜っておりますことパートを代表して御礼申し上げます。跳躍パートの七大戦の目標は「全員が得点に関与する」です。この目標に向かい日々練習に取り組んでおります。

東北インカレにおいては唯一の7mを跳んで優勝した小南(4)をはじめ、多くの部員が優勝や入賞、自己ベストなどといった活躍を見せることが出来、特に男子は昨年に続く総合優勝に貢献することが出来たのではないかと振り返っております。シーズン序盤はなかなか結果が振るわなかった部員も少なくなかったのですが、ここぞという大一番で結果を出すことができ、記録以上に競技者として成長した選手が多くなったと私自身感じております。

今年の七大戦は暑熱対策などによってイレギュラーな箇所が多々ありますが、それにしっかりと対応し、東北インカレ同様結果にこだわっていけるよう、部員全員が準備しています。私個人としても、2年間のPC、そして学部生4年間の集大成として、良い結果を持ち帰られるように日々の練習に取り組んでまいりたいと思っています。応援のほどよろしくお願いいたします。

◆投擲 PC 増田併介

投擲パートは去年から引き続き身体能力向上を軸にして練習量をたくさん積んできました。その結果シーズンインから 8 割の選手が PB を出して現在も記録を伸ばしています。七大戦では上位入賞の選手を狙える選手がいることはもちろん、出場選手全てが得点を期待できます。昨年同様強い投擲パートを見せます。応援よろしくお願いします。

◎自己ベスト更新者一覧(4/20~6/30)

男子 100m

岸本醒知(3)	10.87(-0.6)	北大戦(6/27)
小南慧馬(4)	10.88(-1.5)	北日本 IC(6/19)
元木盛太(6)	10.99(-0.2)	北医体(6/14)
稲谷将幸(4)	11.07(+1.1)	仙台大競(6/6)
根本陽大(4)	11.18(+1.0)	仙台大競(6/6)

男子 200m

岸本醒知(3)	21.50(+0.1)	東京都選(4/26)
根本陽大(4)	22.52(+1.0)	仙台大競(6/7)
稲谷将幸(4)	22.54(-0.1)	東北 IC(5/30)

男子 400m

岸本醒知(3)	47.11	東北 IC(5/29)
---------	-------	-------------

▲部記録更新!!

星川昂太(4)	50.98	仙台大競(6/6)
---------	-------	-----------

女子 400m

喜多和奏(4)	59.84	東北 IC(5/29)
建部亜美(3)	63.82	仙台大競(4/26)

男子 800m

鈴木朝陽(3)	1:57.88	日体大記録会(4/25)
縣昌幸(3)	1:51.10	東北 IC(5/29)
荒澤陽太(3)	1:59.54	日体大記録会(6/13)
瀬尾祐太郎(3)	1:59.91	北医体(6/14)
大崎海斗(3)	2:01.32	日体大記録会(6/13)
渡邊和悠(2)	2:05.44	仙台市競(5/16)

女子 800m

喜多和奏(4)	2:14.36	日体大記録会(6/13)
佐伯紅南(2)	2:14.44	日体大記録会(4/25)
越後谷苑葉(3)	2:23.54	日体大競技会(4/25)
西山知佐(3)	2:25.36	三重陸協記録会(6/7)

男子 1500m

縣昌幸(3)	1:51.10	日体大記録会(6/13)
瀬尾祐太郎(3)	4:20.23	仙台市競(4/26)

女子 1500m

越後谷苑葉(3)	4:57.31	北日本 IC(6/19)
----------	---------	--------------

男子 5000m

小林由輝(M2)	15:10.60	北日本 IC(6/21)
竹田佳人(4)	15:53.02	花巻トラック(5/2)
稲垣俊輔(2)	16:38.14	北大戦(6/27)

男子 10000m

出田義貴(3)	31:25.18	東北 IC(5/29)
---------	----------	-------------

男子 4×100mR

小南-臼田-室田-岸本	40.63	東北 IC(5/29)
-------------	-------	-------------

▲部記録更新!!

男子 400mH

菅野涼太(M1)	52.73	東北 IC(5/30)
堀航太郎(3)	54.60	北日本 IC(6/20)

男子 5000mW

田中滢(2)	21:24.21	東北 IC(5/30)
--------	----------	-------------

男子三段跳

大谷航平(D1)	14m50(+1.3)	北日本 IC(6/20)
----------	-------------	--------------

男子走幅跳

小南慧馬(4)	7m18(+0.9)	東北 IC(5/29)
---------	------------	-------------

女子走幅跳

佐藤璃央菜(3)	4m79(+0.5)	北医体(6/14)
----------	------------	-----------

女子円盤投

五嶋理子(3)	38m48	北大戦(6/27)
---------	-------	-----------

▲部記録更新!!

男子砲丸投

松下典弘(2)	12m33	東北 IC(5/29)
---------	-------	-------------

男子やり投

増田併介(4)	65m24	東北 IC(5/31)
清水颯太(2)	49m75	仙台大競(6/6)

男子十種競技

鍵山弘樹(3)	6132 点	東北 IC(5/30)
倉部彰士(M1)	5517 点	東北 IC(5/30)
金岡拓途(2)	5350 点	東北 IC(5/30)

◎今後の予定

- ・ 7/24-26 七大戦（福岡・博多の森陸上競技場）
- ・ 9/5-7 全日本インカレ（神奈川・日産スタジアム）
- ・ 9/21-23 第 39 回国公立 27 大学対校陸上競技大会(埼玉・上尾運動公園陸上競技場)
- ・ 9/21-22 第 55 回東北学生陸上競技個人選手権大会(山形・ND ソフトスタジアム山形)
- ・ 9/26 秩父宮賜杯第 58 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)

◎編集後記

今シーズンは、東北インカレにおいて男子総合2連覇を達成し、多くの種目で優勝を果たすとともに、全日本インカレの出場権獲得や自己ベストの更新など、チーム全体の實力向上を実感できるものとなっています。7月に入り、七大戦に向けてチームの士気も一層高まり、暑さに負けることなく日々練習に励んでおります。チーム目標の達成に向け、選手・マネージャー一同、より一層努力してまいりますので、今後とも温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

文責 OBOG 通信担当 堀航太郎 編集補助 宮下尚丈、須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp